

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学人文科学研究所 公開日: 2015-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福満, 正博, 加藤, 徹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/17070

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に
関する現地調査と文献研究(2)

福満正博・加藤 徹

Field Survey and Philological Studies of Expansion and Diffusion of Chinese Drama and Music Inside and Outside the Area. (2)

FUKUMITSU Masahiro and KATO Toru

Fukumitsu takes charge of discusses of expansion and diffusion of Chinese Drama

The story of White Rabbit (Baituji) is the drama of southern China (Nan Xi). The plot of the drama is as follows. LiuZhiyuan is an orphan without father. The father of LiSanNiang looked LiuZhiYuan in shrine of MaWang. He favored LiuZhiYuan, and adopted him and married him to his daughter LiSanNiang. But immediately after their marriage the father and mother died. The elder brother annoyed them and asked LiuZhiYuan for a divorce.

LiuZhiYuan said good-by to LiSanNiang and joined a mercenary army of a faraway country, TaiYuan. A daughter of the general of TaiYuan favored LiuZhiYuan. Her father granted his daughter's request and they married.

The elder brother of LiSanNiang treated lonely LiSanNiang harshly. He made his younger sister go to the well to draw water at noon and pound in a mortar at night. But after several months, she gave birth to a child of LiuZhiYuan, and named him YaoQiLang. Since her circumstances were not good, she was like a female slave, so she sent her baby to LiuZhiYuan in TaiYuan. The wife in TaiYuan also received the baby and fostered him.

After many years, her son YaoQiLang chased a white rabbit while out hunting. He unexpectedly met a women like a slave at well. She was his true mother LiSanNiang. YaoQiLang went home back and told his father to come to meet his true mother. In the end LiuZhiYuan and LiSanNiang met again.

The story of White Rabbit (Baituji) has its roots in narrative of LiuZhiYuan, "LiuZhiYuanZhugongdiao", of Jin dynasty (1115-1234). The earliest version of this drama is "ChengHua" version of Ming dynasty. I collected nearly 100 versions of The story of White Rabbit (Baituji) of each era up to now.

In this paper, I commented on variations across the versions. Every version little by little differed in its contents. So I analyzed what sort of scene constructs each drama.

Chinese performing arts were also spread overseas. Kato focuses on the way of vocalization and chanting of "kanshi" (Chinese classic poetry) in Japan. He wrote Kanshi is "glocal" literature: written in "global" style, chanted in local languages. This rule is generally applied to Chinese arts.

《個人研究第1種》

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に
関する現地調査と文献研究（2）

福満正博・加藤 徹

<目次>

I. 序章

II. 南戯「白兔記」の流伝（1）

福満正博

III. 近世日本における唐音唱詩の興隆と衰退
中国芸能の域外伝播の一例として

加藤 徹

I 序章

本稿は、2012年度明治大学人文科学研究所の共同研究である「中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究(2)」の研究成果論文である。研究は今回も前回同様、中国域内における演劇の発展・伝播を福満が担当し、中国から日本にかけての域外における音楽の発展・伝播を加藤が担当した。

「現地調査と文献研究」というのは、現地調査と文献研究を統合させた研究を目指したものである。現地調査と文献研究の総合的研究を追及するというのは、一つの方法論である。現地研究というのはもちろん文化人類学の影響である。文学における文化人類学の影響は大きく、T.S.EliotやJ.Joyceなどの文学作品を挙げるまでもなく、二十世紀の文学思潮の一つとしても大きく位置づけられている。“Mythological Approaches”とか“Myth Criticism”とかとも言われるのがそうである^(註1)。演劇・古典研究でも“Cambridge Ritualists”、“Cambridge Hellenists”などと呼ばれる立場もあった^(註2)。これらは、現在も様々な発展を遂げている。

中国文学の研究においては、そのような立場ものは、ほとんど見当たらない。しかし、演劇研究の分野に限定すれば、日本では田仲一成氏の研究があるし、中国においても祭祀・儀礼と演劇の関係を論ずる研究も少しずつ出始めている。我々も、そこまで何か明確な共通した結論があるというわけではない。しかし演劇・音楽の歴史を研究する以上、伝統的な文献学の方法以外に、現地調査をしなければ、正確さを極めることができないうと共通して思っている。文献だけを基にして論を練り上げても、研究結果が空想的になってしまう危険があるのである。かといって、現地調査だけに頼って文献的・歴史的資料を無視しては、研究を現実の表面から地下深くまで掘り下げその動きを探ることができない。したがって、できるだけ現地へ直接行き調査と結合させながら、文献研究を行うということ、二人の共通した方法として研究を行うことにした。研究対象や研究結果が類似・共通していることによる共同研究ではなく、研究方法を共通にして、その方法・思想を互いに学びあいながら研究を進めるといふ共同研究であった。

前稿「中国の演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究(1)」の結論部の中でも、加藤は、次のように述べている。

幕末の開国後、清国と自由に行き来できるようになった後も、すでに日本の稽古事文化の一つとなっていた清楽は、日本国内で完結したままであった。

江戸期に中国から日本に入った清楽の「九連環」という曲は、明治期になってますますお家芸・稽古事化してしまっ、広く普遍的に発展することがなかったというのである。このように悪い意味での日本の芸事の特徴とは反対に、我々の研究はより広い視野で普遍的な価値を求めて進めていこうということ、共通にするものであった。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

事実前回の研究でも、加藤は長崎や沖縄に何度も現地調査に行っている。また福満も「金釵記」の出版された福建省の建陽から、出土した広東省潮州まで、予想したルートを実際に旅してみて、そのような移動が可能かどうかを試みた。その結果、それは今でも江西省と広東省を結ぶ主要な街道であることを確認した。また広東省潮州市では出土現場まで足を運んで、その地点がこの主要な街道筋であることも発見した⁽⁷⁾。このように、現地調査を行えば、文献調査の結果を裏付けるだけでなく、予想した以上の成果を見つけることも少なくなかった。

前回の共同研究である「中国の演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（1）」（『明治大学人文科学研究紀要』第70冊）の内容をまとめると次のようである。前半で福満は、南戲「金釵記」を取り上げ、中国域内の演劇の伝播について述べた。「金釵記」が福建省の建陽で出版されたものであること、南に贛江沿いに下り江西省の吉安で抄本となり、南嶺山脈を越えて最後に出土した広東省潮州市までたどり着いたことを論証した。その中で演劇の伝播の南ルートがあることを明らかにした。また後半で加藤は、清楽の中の「九連環」という曲を取り上げ、中国音楽の中国から日本にかけての域外における発展・伝播について述べた。「九連環」という曲は、江戸末期に長崎に伝播し、それが明治期に至るまで様々に伝承・発展した。その時代の中で、「九連環」の曲の記譜法の変化をたどりながら、垂直伝播ともいべき伝承の特色を様々に明らかにした。

今回の共同研究である「中国の演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）」は、次のような内容になっている。前半では、福満が新たに南戲「白兔記」の作品を取り上げ、その流伝を跡付けようとした試みの一部である。「白兔記」の100種近い版本を収集し、それぞれについて解説しようとしている。また中国でも日本でも普通にみることのできない江西省九江青陽腔の「白兔記」の油印本を完全に刻字した。最近まで上演されていた青陽腔の上演本であるので、学術的価値が十分にあるものと思われる。

後半では、加藤が新たに「唐音唱詞」という文化の江戸時代から明治時代にかけても流行を取り上げ、中国の文化が日本に流入する際に起きる特徴について論じたものである。従来取り上げられることの少なかった音楽文化の発展伝播を研究していて、これも学術的価値が十分に高いものと思われる。

論文は、前半の研究「南戲「白兔記」の流伝（1）」を「前篇域内編」とし、後半の研究「近世日本における唐音唱詩の興隆と衰退—中国芸能の域外伝播の一例として」を「後編域外編」とし、二つをまとめて掲載した。

注

1. Bell, M., 'Anthropology and/as myth in modern criticism', in Waugh, P., ed., *Literary Theory and Criticism*, (New York: Oxford University Press, 2006), pp.119-129.
2. Guerin, W. L., et al., '7 Mythological and Archetypal Approaches', in *A Handbook of Critical Approaches to Literature*, 4. ed., (New York: Oxford University Press, 2005), pp.182-222
3. 福満正博、加藤徹、「共同研究報告」、『明治大学人文科学研究年報：2009年度』51号、2011年、p28-30、同『明治大学人文科学研究年報：2010年度』52号、2012年、p27-29、

Ⅱ. 前篇、域内編

南戲「白兔記」の流伝（1）

福満 正博

第一章 はじめに

「白兔記」は、南戲である。南戲「白兔記」に関係する版本については、これまでも示してきた。今回新しく収集したものの中には、何人かの先学から教示を受けたものもある。それらを含めて、改めてこれを示せば、以下のようなになる。ただし、これらの中のそれぞれの資料は、十分に調査が終わっていないものもあれば、未見の版本もある。未見の版を見る機会ができるのかどうか分からない。ともかく、この表の分類は暫定的なものである。

1. 諸宮調

・『劉知遠諸宮調』十二卷（存五卷四十二葉、中国国家図書館所蔵）

2. 明成化本系統

・『新編劉知遠還鄉白兔記』、明・成化間、『明成化説唱詞話叢刊』所収

3. 風月錦囊本系統

・『風月錦囊』明・嘉靖32（1553）年、『善本戲曲叢刊』（臺灣学生書局影印本、1987年、以下同じ）所収

4. 汲古閣本系統

全本

- ・『白兔記』汲古閣本、明・天啓間、『古本戯曲叢刊初集』（上海商務印書館影印本、1954年、以下同じ）所収

散齣

- ・『旧編南九譜』明・蔣孝編、明・嘉靖28（1549）年、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『増定南九宮曲譜』明・沈璟、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『吳歛萃雅』明・周之標、明・萬曆44（1616）年、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『珊瑚集』明・周之標、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『詞林逸響』明・許宇、明・天啓3（1623）年、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『南音三籟』明・凌濛初、明末原刊本、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『玄雪譜』明・鋤蘭忍人、明末刊本、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『醉怡情』明・青溪菰蘆釣叟、清初刊本、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『樂府遏雲編』、明末刊本、（中華書局影印本、1973年）
- ・『南北詞広韻選』明末成書、清初抄本、『統修四庫全書』（上海古籍出版社影印本、1995年、以下同じ）所収
- ・『南詞新譜』明・沈自晉、清・順治12（1655）年刊本、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『寒山堂新定九宮十三撰南曲譜』明末・張彝宣、清抄本、『統修四庫全書』所収
- ・『寒山曲譜』明末・張彝宣、清抄本、『統修四庫全書』所収
- ・『九宮正始』清・順治8（1651）年抄本、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『新定十二律京腔譜』清・王正祥、清・康熙23（1684）年、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『欽定曲譜』清・康熙54（1715）年、（中国書店影印本、1990）
- ・『南詞定律』清・康熙59（1720）年、『統修四庫全書』所収
- ・『九宮大成譜』清・乾隆7（1742）年
- ・『綴白裘』清・錢德蒼、清・乾隆39（1774）年、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『納書楹曲譜』清・乾隆57～59（1792～1794）年、『善本戯曲叢刊』所収
- ・『六也曲譜』清末、張怡庵、『中国古代曲譜大全』（遼海出版社影印本、2009年）所収
- ・『從我所好』清末抄本、李懷邦、東京大学東洋文化研究所双紅堂所蔵
- ・『曲譜』清抄本、東京大学東洋文化研究所双紅堂所蔵
- ・『梨園演曲』清抄本、東京大学東洋文化研究所所蔵
- ・『霓裳雅奏』清末抄本、東京大学東洋文化研究所双紅堂所蔵
- ・『無名曲本』清末抄本、東京大学東洋文化研究所双紅堂所蔵
- ・『雜劇曲譜三十五種』、『中国古代雜劇文献輯録』第12集（新華書店影印本、2006年）
- ・『今樂府選』清末・姚燮、未見
- ・崑曲「白兔記」、『集成曲譜』民国・王季裂、民国13（1924）年
- ・崑曲「白兔記」、『崑曲大全』民国・張芬、民国14（1925）年

- 崑曲「白兔記」、『俗文學叢刊』（中央研究院歷史語言研究所俗文學叢刊編輯小組編輯：新文豐出版影印本，2001年、以下同じ）第74冊所収

5、富春堂本系統

全本

- 『劉知遠白兔記』富春堂刊本、明末、『古本戲曲叢刊初集』所収
- 『新刻出像音注增補劉智遠白兔記』暖紅室彙刻伝奇（江蘇広陵古籍刻印社影印、1990年）

散齣

- 『玉谷新簧』、明・萬曆38（1610）年、『善本戲曲叢刊』所収
- 『樂府珊瑚』明・秦淮墨客、明・萬曆、『善本戲曲叢刊』所収
- 『詞林一枝』明・黃文華、明・萬曆間、『善本戲曲叢刊』所収
- 『群音類選』明・胡文煥、明・萬曆間、『善本戲曲叢刊』所収
- 『樂府万象新』、明末刊本、『海外孤本晚明戲劇選集三種』（上海古籍出版社、1993年、以下同じ）所収
- 『大明天下春』、明末刊本、『海外孤本晚明戲劇選集三種』所収
- 『樂府歌舞台』、清刊本、『善本戲曲叢刊』所収

6、弋陽本系統

散齣

- 『歌林拾翠』清刊本、『善本戲曲叢刊』所収
- 『摘錦奇音』明・龔正我、明・萬曆39（1611）年、『善本戲曲叢刊』所収
- 『八能奏錦』明・黃文華、明・萬曆間、『善本戲曲叢刊』所収
- 『徽池雅調』、明末刊本、『善本戲曲叢刊』所収
- 『時調青崑』明・黃儒卿、明末刊本、『善本戲曲叢刊』所収

7、地方戲曲

全本

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究(2)

- ・安徽省青陽腔徽州抄本「白兔記」、『青陽腔戲文三種』(民俗曲芸叢書、1999年)所収
- ・江西省九江青陽腔「白兔記」、1979年殷武煥油印、劉春江先生藏
- ・湖南省湘劇高腔「白兔記」、『湖南戲曲伝統劇本』湘劇第3集(湖南省戲曲工作室『湖南戲曲伝統劇本』第7集(湖南省戲曲研究所、1961年本校勘重印本、1980年、以下同じ))
- ・湖南省辰河高腔「大紅袍」、『湖南戲曲伝統劇本』辰河戲第5集
- ・四川省川劇高腔「紅袍記」、『川劇伝統劇本匯編』第4集(四川人民出版社、1958年)
- ・江蘇省蘇州灘簧「白兔記」、『蘇劇前灘』第2集(蘇州市戲曲研究室、1960年)

散齣

- ・安徽省青陽腔「白兔記」、『青陽腔劇目匯編』(青陽県文化局、1990年)
- ・安徽省青陽腔「磨房会」、『中国地方戲曲集成、安徽卷』(中国戲劇出版社、1959年)
- ・安徽省淮劇「新編劉知遠投軍白兔記」、『俗文学叢刊』第115冊
- ・四川省川劇『兵書劍胖房相会全本』、『俗文学叢刊』第104冊
- ・四川省『白兔記』、『川劇』79集(重慶人民出版社、1958年)未見
- ・四川省川劇「紅袍記」、『川劇伝統劇目選集』第1集(重慶芸術研究所、2004年)
- ・浙江省調腔「白兔記」、『浙江伝統劇目選編』(浙江省芸術研究所、1962年)第2集所収
- ・浙江省婺劇高腔「白兔記」、『婺劇高腔考』(葉開元、龍溪書舎、1981年)
- ・浙江省婺劇高腔「白兔記」(趙景深蔵本)、『婺劇高腔考』(同上)
- ・浙江省温州南戲「換磨分婉」、『温州南戲考述』(胡雪岡、作家出版社、2002年)
- ・梨園戲「劉知遠」、『泉州伝統戲曲叢書』(中国戲劇出版社、1999年)第2卷
- ・福建省福州戲「劉智遠」、『俗文学叢刊』第112冊
- ・福建省福州平話「磨房産子」、『俗文学叢刊』第370冊
- ・福建省南音「三娘汲水」、『俗文学叢刊』第448冊
- ・湘劇高腔「白兔記」長沙市湘劇四团所蔵抄本、『湖南戲曲伝統劇本』湘劇第3集(1961年)
- ・湘劇高腔「白兔記」湘劇老芸人周華福抄本、『湖南戲曲伝統劇本』湘劇第3集(1961年)
- ・広東省潮劇「井辺会」、『広東戲曲選』(広東省戲劇研究室編、1982年)
- ・広東省正字戲「李三娘」抄本多種、鄭守治氏蔵
- ・陝西眉戸「白兔記」、『陝西省伝統劇目匯編、郿鄠』(陝西省文化局、1958年)第3集。
- ・京劇「絵図磨房産子」、清・光緒『絵図京調四集六十二種』所収、東京大学東洋文化研究所双紅堂所蔵
- ・京劇「絵図小磨房」、民初『絵図京都三慶班京調脚本』所収、東京大学東洋文化研究所双紅堂所蔵
- ・京劇「校正京調小磨房」(上海章福記書局)、早稲田大学風陵文庫所蔵
- ・京劇「校正新刻白兔記全本」、清末民初『新印京調全編』所収、九州大学浜文庫所蔵
- ・京劇「磨房産子」、清光緒『絵図三慶班三套京調脚本』所収、大阪大学懐徳堂文庫所蔵
- ・京劇「磨房産子」、『戲考』(上海書店影印本、1990年)第28冊

- ・京劇「竇老送子」、北京市戲曲編導委員會『京劇彙編』第91集（北京出版社、1962年）
- ・京劇「小磨房」、『俗文学叢刊』第309冊
- ・京劇「竇老送子」（故宮博物院藏本）、『京劇傳統劇本彙編』第15卷（北京出版社、2009年）
- ・史梅亭抄宝卷「白兔記」、清・光緒二十四年、上海図書館所蔵
- ・華桂芳沐抄宝卷「白兔記」、1915年、上海図書館所蔵
- ・宝卷「李三娘胖房」（上海惜陰書局）、早稲田大学風陵文庫所蔵、京都大人文研所蔵
- ・子弟書「李三娘挑水」、『清蒙古車王府藏曲本』（首都圖書館編輯、北京古籍出版社影印本、1991年、以下同じ）第309函
- ・子弟書「磨房産子」、『清蒙古車王府藏曲本』第311函
- ・戯劇補編「白兔記（脚本）」、『俗文学叢刊』第347冊
- ・河北省河北四股絃「白兔記」、『河北戯曲傳統劇本彙編』（河北省戯曲研究室、1960年）第2集。未見。
- ・安徽省岳西高腔「白兔記」、「岳西高腔滾調選注」（『南戯遺存考論』徐宏図2009、に引く）所収。未見。
- ・浙江省松陽高腔「白兔記」抄本、松陽県文化局蔵、（『南戯遺存考論』徐宏図2009）に引く。未見。
- ・西呉高腔「白兔記」抄本、江和義蔵本、（『南戯遺存考論』徐宏図2009）に引く。未見。
- ・浙江省西安「白兔記」抄本、衢州市文化局蔵、（『南戯遺存考論』徐宏図2009）に引く。未見。
- ・浙江省侯陽高腔「白兔記」抄本、東陽市婺劇団蔵（『南戯遺存考論』徐宏図2009）に引く。未見。

全部合わせると百種近くある白兔記の様々な版本である。これでも全体の何分の一なのか、現在のところは見当がつかない。これらから、我々は白兔記が時代に從ってどのように流伝したか、どこから来てどこへ伝わって行ったかの様子がわかるはずである。白兔記を軸にして、中国各地の劇種が地域ごとにどのような特徴があるか、また相互にどのような関係があるかなどかがうことができる。これらの中には演劇ではなく、語り物などの芸能も含まれている。したがって、語り物から演劇までの、様々な種類の芸能の相互の関係もうかがえるかもしれない。場合によっては逆に、時代を遡って白兔記の淵源が、或は祖型がどのようであったか、またどの地域で成立したのかなどの重要な手掛かりを得ることができるかもしれない。

しかし現在は、まだその段階ではない。たとえば「Ⅶ、地方戯曲」などは、地方の戯曲だというだけで、ここに分類して項目を立てここに入れただけで、それが汲古閣本系統なのか、それとも富春堂本系統なのかなどの基本的なことも検討していない。富春堂本系統と類似するが異なる「Ⅵ、弋陽本系統」の諸本も、十分に検討されていない。そもそも7つに分けた分類すらも、実はそれだけなのか、別にまだあるのかなどの問題もまだ十分に検討していない。ほとんどはただ目撃しただけで、大部分はまだよく検討していないのである。

このような検討は、どのようになされるべきだろうか。経験的に言えば、正しい結論を得る最も近い道は、地道に一つ一つの資料を検討して、その結果を集めることであろう。百種あまりの版本をす

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

べて検討することはできないかもしれないが、とりあえず主要な版本については十分に検討し、全体の大まかな見取り図は描かなければならない。

以上のようなことを遂行するために、白兔記の主要なそれぞれの版本をまず検討しようというのが本稿の目的である。この場合、物語の粗筋である各場面がどのように構成されているのかを中心に調べていくことにする。また、それぞれの版本には、簡単な解説も加えた。これらの作業をまずまとめて「白兔記場面表」と呼び、第2章から各版本をそれぞれ一つずつ検討していくことにする。検討する主要な版本の順番は、特に意味はない。また例えば、(5)の「江西省九江青陽腔『白兔記』」などについては、重要であるが、通常見ることができない貴重な油印の抄本である。したがって、本稿でその内容を明らかにするために、抄本のすべてを刻字して本稿に掲載し、読者の便に供した。

第二章 白兔記各版の場面表

(1). 成化本「白兔記」

成化本白兔記は、1967年に嘉定県の宣氏の墓から13種の説唱詞話と一緒に出土した。1973年に最初の報告がなされ、1979年に、最初の影印本が出され人々の目に触れることができるようになった。成化本白兔記は、場面を分けていない。南戯の齣がどのようなものであったかは疑問が残るが、ともかく成化本の場面については、兪為民氏の「明・成化本<劉知遠還郷白兔記>校注」の場面分けと、その名称に従った。なお、兪為民氏の場面の区分のやり方や場面の命名は、後の(3)で述べるように古い開明書店排印本(1935年)や中山大学中文系五五級明清傳奇校勘小組『白兔記』(中華書局、1959年)に拠っている。したがって、通行する新しい『六十種曲』(中華書局、1982年)本とは、場面の名称が少し異なる。ともかく、兪為民氏の命名による成化本「白兔記」の全場面は、以下のようである。

1. 開宗
2. 訪友
3. 祭賽
4. 留莊
5. 牧牛
6. 成婚
7. 逼書
8. 説計
9. 看瓜・分別
10. 途嘆
11. 投軍
12. 巡更
13. 拷問・岳贅
14. 強逼
15. 挨磨・分娩
16. 送子
17. 見兒
18. 汲水
19. 受封
20. 出獵

21. 訴獺
22. 團圓

参考文献

- ・趙景深「明成化本南戲<白兔記>の新発見」（『文物』1973年1期）
- ・『成化説唱詞話叢刊』（文物出版社,1979年）
- ・『成化新編劉知遠還鄉白兔記』（江蘇廣陵古籍刻印社校補,1980年）
- ・俞為民「明・成化本<劉知遠還鄉白兔記>校注」（『芸術研究』12輯、1985）
- ・胡竹安「広陵刻印校補本<劉知遠還鄉白兔記>校注」（『中国語文』1984年4期）
- ・林昭徳「広陵刻印校補本<劉知遠還鄉白兔記>再補正」（『西南師範大学学报』1986年4期）
- ・陳練軍「<劉知遠諸宮調>与明成化<白兔記>詞語比較」（『忻州師範学院学报』24卷3期、2008年）
- ・高橋文治『成化本『白兔記』の研究』（汲古書院、2006年）
- ・福満正博「中国近世戯曲小説中の異体字研究（5）-明・成化本『白兔記』-」（『明治大学教養論集』499号、2014年）

（2）富春堂本「白兔記」

私が使ったのは『古本戯曲叢刊』初集に収められる、北京図書館蔵本の影印である。正式には「新刻出像音註劉智遠白兔記。預人・敬所、謝天祐校。金陵・対溪、唐富春梓」である。このほかにも暖紅室彙刻傳奇第三種の中にも校訂本（江蘇廣陵古籍刻印社影印、1990年）が収められている。校訂本といっても、必ずしも暖紅室本の字が正しくないことがあることが見受けられる。

富春堂本は別本『繡刻演劇』六十種に含まれていたのではないかという説もあるが、ここでは取り上げない。富春堂本の場面には、第一折の「開場」と第二十折「智遠行路」の二折以外には、特に名称がない。しかし、安徽省の徽州抄本の背陽腔本は富春堂本と内容、場面の区分から、曲辭に至るまで類似しているものである。安徽省の徽州抄本は、後の清末に成立したものである。富春堂よりも後に成立したものであるが、各折に名称が付せられている。したがって、富春堂本の各折の名称には、できるだけ安徽省の徽州抄本の名称を利用した。対応しない折については、私が適切と思われる名称を付けた。この場合は、私の名付けに拠ることを明らかにするために、カッコを付した。

富春堂本「白兔記」の全場面は、以下のようである。

1. 開場
2. 沽酒
3. 賞春
4. 賭錢・賽願
5. 看相
6. 看馬

7. 議婚
8. 掃地
9. 成親
10. 觀花
11. 逼写休書
12. 休書無功
13. 計陷
14. 別妻看瓜
15. (送水飯)
16. 瓜精出現
17. 瓜園分別
18. (王彥章反兵)
19. 招兵
20. 智遠行路
21. (投軍)
22. (占星)
23. (擺陣)
24. (強逼)
25. (三娘剪髮)
26. 後贅岳氏
27. 挨磨 (1)
28. 挨磨 (2)
29. 接子 (1)
30. 接子 (2)
31. (李洪信反省)
32. (劉知遠提兵)
33. 小相会
34. 打獵
35. 傳書汲水 (1)
36. 傳書汲水 (2)
37. 回獵
38. 磨房相会
39. 团円

参考文献

- ・「新刻出像音注増補劉知遠白兔記」（『古本戯曲叢刊』初集、1954年）
- ・程有慶「別本＜繙刻演劇＞六十種考辨」（『国家図書館学刊』Z2期、1993年）
- ・福満正博「安徽省青陽腔＜白兔記＞与富春堂本、＜風月錦囊＞本＜白兔記＞」（『戯曲研究』87輯、2013年）

（3）. 汲古閣本「白兔記」

汲古閣本『白兔記』というのは、江蘇常熟の毛晋の汲古閣によって出版されたものである。毛晋の生卒年から考えて、明末・清初という以外、正確な出版年は分かっていない。この汲古閣の白兔記は、現在は『六十種曲』（中華書局、1982年）の中に含まれていて、比較的容易に見ることができる。しかし『六十種曲』の通称で知られる汲古閣本も、実はそれほど簡単な版ではない。

『六十種曲』自体、もともとは汲古閣により『繙刻演劇十本』の名で、一套十種の戯曲を集め、順番に第一套から第六套まで出版され、六十種に達したものである。それぞれの套の初めには封面と序文に当たる「弁語」と扉頁とが付けられた。この初印本は数多くは出版されなかったようで、その後度々重印・重刻が行われた。しかしこの重印・重刻本は、初印本と異なる。一番大きな点は、作品の編次が異なる点である。たとえば初印本では「琵琶記」が最初の作品であるが、重刻本では「雙珠記」が初めである。また、問題の白兔記は初印本では第六套の始め、つまり第51番目の作品であるが、重刻本では第57番目に移動している。通常我々が図書館で見かける唐本は、この重印・重刻本である。重刻が重ねられる過程では、訛錯が酷くなっていくのが普通である。私が見た国会図書館所蔵の『六十種曲』（清・道光二五年、「同徳堂蔵版」）の場合は、訛錯として次のようなものが見られた。

- 上巻第五頁、六頁、四十三頁、四十四頁の表・裏の下半分が、全く別の作品の文章とつなげてある。
- 下巻の四十七頁と四十八頁が、前後の順番が逆に綴じられている。

重刻本は清朝の活字で刻字されていて、なかなか読みにくい版である。しかし、大まかに私の見た範囲でいえば、初印本も重刻本も每半葉9行、毎行19字という点では全く同じである。従って訛錯は、落丁・残欠・顛倒などの範囲を出ず、内容の変更に到るような大きなものではないと思われる。

1935年に、最初に上海開明書店で『六十種曲』が排印本として出版された時も、実は汲古閣の初印本に拠ったのではなく、その後に刻された重刻本によって出版された。したがって、作品の配列も初印本のものとは異なっていた。「胡墨林断句、葉聖陶・徐調孚校訂」と記されている。胡墨林氏が、句読点を付け、葉聖陶氏と徐調孚氏が校訂をしたというので、その底本は重刻本であったのである。明末・清初の汲古閣出版の『繙刻演劇』初印本を、六十種全部揃ってみることは、当時まったく不可能なことであったのである。

汲古閣の初印本を探索することはそれほど容易なことではなかったらしく、一冊ずつ初印本を見つけていく作業は、その後長い時間が費やされたらしい。開明書店の出版から20年ほど経た1955年に

北京文学古籍刊行社から『六十種曲』が出版される。これが、ほぼ初印本に拠って校訂された、最初の『六十種曲』である。当時初印本の多くは蔵書家や図書館によって所蔵されていたようである。初印版の蔵書の状況は、呉曉鈴氏（1990）によれば、傅惜華39種、呉曉鈴27種、鄭振鐸18種、北京大学図書館（馬隅卿旧蔵）14種、北平図書館10種、Hoffman（ドイツ）10種、鄭鐸4種、趙景深3種、賀昌群2種、呉梅1種、開明書店図書館1種であったようである。

さて問題の白兔記は、『古本戯曲叢刊』初集に収められている「長楽鄭氏蔵」本の影印によって見ることができる。「長楽鄭氏蔵」とは、鄭振鐸の所蔵本の影印である。これが本当に初印本であるかどうかは、我々は確認のしようがない。しかし日本の宮内庁書陵部に所蔵される『伝奇四十種』は、明末清初の『繡刻演劇』の初印本を含む唐本とされている（長澤規矩也、1982）。その中にある「白兔記」は、私の調査では初印本とされる『古本戯曲叢刊』初集に収められる鄭振鐸所蔵本と、全く同じであった。

また伴俊典（2010）によれば、東京大学総合図書館蔵本の『六十種曲』は「（初印の）本来の面目を最も残すもの」とされている。事実、この本には「白兔記」を第六套の一番初めの編次とする本来の封面を残している。この東京大学総合図書館蔵本も、『古本戯曲叢刊』初集に収められる鄭振鐸所蔵本と、内容がほぼ同じであった。異なるのは、下巻四十七頁と四十八頁が、東大総合図書館本では前後逆に誤っている点だけであった。

さて傅惜華の『明代戯曲全目』に、『六十種曲』の原刻・初印版は、各作品の前に多く扉頁があり、版式・行款・字体はとても精密で整っていて、ページの数字にも間違いがない（535頁）と称されている。初印本は、完全であったというのである。しかし、初印本ですら、必ずしもそのように正しなかったわけではないと思われる。少なくとも白兔記の初印本である汲古閣本の場合は、そうではない。細かなことは別にして、一番大きな問題は、目録と実際の作品内容との不一致があることである。それは次の三点である。

1. 上巻の目録で、第十二齣「看瓜」と第十三齣「分別」は、分けて書いてある。しかし実際の作品中では第十三齣の表示がない。つまり第十二齣と第十三齣が一緒になっているのである。
2. 下巻の目録にある第十五齣「受封」（実際に作品中には誤って『第十六齣』と表記してある）と、第十六齣「汲水」（実際に作品中には誤って『第十七齣』と表記してある）とが、実際の作品中には順番を前後逆にしておいてある。
3. 下巻の目録の最後の部分に、第十七齣「訴狽」、第十八齣「私会」、第十九齣「團圓」の三齣が並んでいる。しかし、実際の作品の最後の部分は四齣存在していて、第十七齣「（不明）」、第十八齣「（不明）」、第十九齣「私会」、第二十齣「團圓」となっている。

呉曉鈴（1990）は、排印本の『六十種曲』に次の三種を挙げている。

- ・『六十種曲』開明書店、1935年
- ・『六十種曲』文学古籍刊行社、1955年

・『六十種曲』中華書局、1982年

それぞれに「白兔記」が含まれている。これに加えて「白兔記」では、私は次の本を加える。

・『傳奇十三種』中山大學中文系五十五級明清傳奇校勘小組整理、中華書局、1959年

「白兔記」の排印本は、全部で4種数えることができる。4種の排印本が、上記の三つの問題についてどのように処理しているかを示すと、以下のようである。

第1の問題について、開明書店本・中山大學本ではそのまま第十二齣「看瓜・分別」として、そのままにしてある。これに対して文学古籍刊行社本・中華書局本では、途中で分けて第十二齣「看瓜」と第十三齣「分別」を作り出している。

第2の問題については、どの排印本も実際の作品の順番によって第十五齣「給水」と、第十六齣「受封」に改めている。

第3の問題の不明である第十七齣と第十八齣をどのように名付けるかは、排印本によって異なっている。開明書店本では第二十九齣「□□」、第三十齣「訴獵」とする。文学古籍刊行社本・中華書局本では第三十齣「訴獵」、第三十一齣「憶母」とする。中山大學本では第二十九齣「出獵」、第三十齣「訴獵」となっている。

以上大まかに述べたように、初印本である汲古閣本にも、さまざまな問題が含まれている。そしてそれに対する対応も、4種の排印本によって、それぞれに異なっている。しかしとりあえず比較のために、汲古閣初印本「白兔記」の場面を、現在最も通行する中華書局本『六十種曲』（1982年）の区分けと名称に従ってそれを記す。

汲古閣本「白兔記」の全場面は、以下のようである。

1. 開宗
2. 訪友
3. 報社
4. 祭賽
5. 留莊
6. 牧牛
7. 成婚
8. 游春
9. 保護
10. 逼書
11. 説計
12. 看瓜
13. 分別
14. 途嘆

15. 投軍
16. 強逼
17. 巡更
18. 拷問
19. 挨磨
20. 分娩
21. 岳贅
22. 送子
23. 求乳
24. 見兒
25. 寇反
26. 討賊
27. 凱回
28. 汲水
29. 受封
30. 訴狽
31. 憶母
32. 私会
33. 團圓

参考文献

- ・「白兔記」(『古本戯曲叢刊』初集、1954年)
- ・『六十種曲』(開明書店、1935年)
- ・『六十種曲』(文学古籍出版社、1955年)
- ・中山大学中文系五五級明清伝奇校勘小組『白兔記』(中華書局、1959年)
- ・『六十種曲』(中華書局、1982年)
- ・倪惜華『明代伝奇全目』(人民文学出版社、1952年)
- ・蒋星煜「〈六十種曲評注〉序—六十種曲の編刻与流伝」(『六十種曲評注』第一卷、吉林人民出版社、2001年)
- ・吳曉鈴「〈六十種曲〉校点者的自白」(『華北学刊』第一期、1990年)
- ・徐扶明「毛晋与〈六十種曲〉」(『中国文学研究』1987年2期)
- ・長澤規矩也「伝奇四十種考」(『長澤規矩也著作集』第一卷所収、1982年)
- ・伴俊典「『六十種曲』の日本における所蔵と流通について」(『中国文学研究』早稲田大学36、2010年)
- ・福満正博「汲古閣本白兔記の、曲牌ごとの曲辞異文の所在目録」(『明治大学教養論集』472号、2011年)

（4）徽州抄本「白兔記」

福満（2013）において、「安徽省青陽腔白兔記」と述べた本のことである。つまり『青陽腔戲文三種』（1999）に収められた白兔記である。名称を「安徽省の青陽腔白兔記」から徽州抄本「白兔記」に変更したのは、安徽省の青陽腔に由来する白兔記の抄本が、必ずしも一種ではないと分かったからである。それで、由来する地域に応じて「徽州抄本」と、より細かな地名にした。

徽州抄本「白兔記」の原本について、私は現在その所在について調査中である。しかし、その由来については、以下のような複数の明らかな証言があり、確かなことと思われる。

班友書氏は、次のように述べる。

1986年の冬、私は安徽省の徽劇劇団の資料室で、岳西地方の高腔の残存する劇の目録を調査していた。その中で不意に徽劇劇団の抄本を発見した。＜水雲亭＞と命名されていた。扉面には「雲亭相会」と題してあり、右端に小さな字で「同治八年王右生藏本」と、注が書いてある。刁均寧氏の話によれば、1950年代に皖南（安徽省の長江より南の地域）地方から筆写してきたものとのこと。所蔵者の王右生さんは、高腔も上演していたが、徽劇や目連戲も上演し、後には歙県（長陔郷）長標村の勸善劇団の劇団主となり、人民共和國の建国後も続けて劇団を連れて上演を続けていたとのことだ。「従＜高文挙＞戯文談及皖南抄本＜水雲亭＞的発見」（『古劇青陽腔』）

また、班友書氏は次のようにも述べている。

＜水雲亭＞劇は、1957年徽劇団が皖南地域で上演活動をしているときに、抄録したものだ。抄録した人は、扉面の右側に「公元一九五七年抄邵画堂同治八年由王右生藏本」と一行小字で注を書き加えている。これは、原本が同治年間の邵画堂に収蔵されていて、後に王右生の所蔵されたことを示している。邵画（華）堂という名称に至っては、これが人名なのか堂の名前なのか断定しがたいところがある。しかし昔民間では保存しなければならない貴重な文物に「堂」の名前を付けることが流行していた。だからこれは邵さんの家の堂の名前だっただろうと思われる。長い間交通の不便な皖南の山間部に保存されて、劇名も異なっていたのでなかなか発見されなかったと思われる。その上、徽劇団はこのような古い劇に詳しくなく、とても重要な発見をしたといっても、資料室に三十年も放置されていたということは、とても残念なことだ。「古劇＜高文挙＞民間演出本＜水雲亭＞的新發現及其意義」（『古劇青陽腔』同）

また徽劇団に参加していて、後に『青陽腔戲文三種』を出した刁均寧氏は、次のように述べている。

1957年の春と夏の変り目のころに、徽州の山間を調査して、青陽腔（徽池雅調）の清代の抄本5種を得た。『還魂記』『荊釵記』『白兔記』『投筆記』『呂蒙正』である。このほかに『梁武帝』

『精忠記』『三世記』『西遊記』『紫竹林』『勸善記』『罰惡記』『解司記』など13種があった。しかし、文化大革命の途中に、『荊釵記』など多くが散逸した。『呂蒙正』は「看女」一齣、『投筆記』は「班超脱靴」一齣が残っただけであった。目連戲も『勸善記』『罰惡記』『解司記』の三本が残っただけであった。「青陽腔戲文三種鈎沈」(『古腔新論』)

以上から見るに、徽州抄本「白兔記」は、1957年に安徽省の徽劇劇団によって発見抄録された、王右生の蔵する邵画堂の清朝抄本が原本であるらしい。実際に読んでみると、富春堂本に類似する部分が多い。しかし、直接抄録したのではなく、芸人などの手を経て、上演用に改編されたものであることがわかる。これが、文化大革命の嵐を乗り越えて1986年に再度発見されたのである。

徽州抄本「白兔記」の全場面は、以下のようである。

1. 開場
2. 沽酒
3. 賞春
4. 賭錢
5. 賽願
6. 看相
7. 看馬
8. 譏婚
9. 掃地
10. 成親
11. 觀花
12. 上莊
13. 逼写休書
14. 計陷
15. 別妻看瓜
16. 瓜精出現
17. 瓜園分別
18. 招兵
19. 点将交戦
20. 後贅岳氏
21. 挨磨
22. 接子
23. 嘆雪

24. 小相会
25. 打獵
26. 傳書汲水
27. 回獵
28. 磨房相会
29. 団円

参考文献

- ・刁均寧『青陽腔戲文三種』（財団法人施合鄭民俗文化基金会、1999年）
- ・班友書『古劇青陽腔』（安徽文芸出版社、2002年）
- ・安徽省芸術研究所『古腔新論』（安徽文芸出版社、1994年）
- ・福満正博「安徽省青陽腔〈白兔記〉与富春堂本、〈風月錦囊〉本〈白兔記〉」（中国戯曲研究所、『戯曲研究』87号、2013年）

（5）. 江西省九江青陽腔「白兔記」

青陽腔とはほぼ意味を同じくする「高腔」の名は、中国各地の地方戯の中に残存している。しかし私の現地への調査では、現在の安徽省青陽県には、ほぼその伝承も遺構も見ることではできなかった。ここで江西省に位置する「九江」市の「九江」という名を、「青陽腔」に冠するのは奇異な感じを持つかもしれない。実は、青陽腔は近代になって、ほとんど絶えたと考えられていたようである。しかし、これがまだ江西省の九江あたりに残存していることを報告したのは、最初に報告したのは流沙（1957）である。流沙氏は、江西省戯曲研究所の所属であった。

現在では、九江学院の劉春江氏などが九江一帯の青陽腔の調査保護に携っている。劉春江（2008）によれば、50年代に一度調査が行われたらしい。しかしその資料も、文革時に失われたらしい。文革が終息した80年代に再度調査が行われた。劉春江氏の私への私信によれば、九江青陽腔「白兔記」は、やはり1980年代に現地を調査している際に、油印抄本の著者殷武煥氏から手ずから譲り受けたものだそうである。また、殷武煥氏は、非物質文化遺産の第二批国家級代表传承人なのだそうだ。殷武煥氏は、1932年江西省湖口県付壠郷殷山村に生まれ、農民である。私塾に5年通ったという学歴である。十歳の頃から、呉江龍という先生に青陽腔を学んだそうである。氏はほかに十数種の劇目を演ずることができるそうである。これに関する簡単な別の説明を、福満（2012年）に記しておいたので、そこも参照されたい。

私は2010年に、ある機会があり、劉春江氏から油印抄本である江西省九江青陽腔「白兔記」の影印を提供してもらった。殷武煥氏の江西省九江青陽腔本「白兔記」の全場面は、以下のようである。

1. 登場

2. 賭錢
3. 完願
4. 盜鷄
5. 帶婦
6. 収馬
7. 掃地
8. 玩花
9. 逼休
10. 露（看）瓜
11. 杻棍
12. 瓜園別
13. 王彦章
14. 投軍
15. 催軍
16. 交戰
17. 鷄包山
18. 回營
19. 挨磨
20. 送子
21. 下旨
22. 回朝
23. 出獵
24. 噴雪
25. 井辺遇
26. 回書
27. 磨房会
28. 算帳
29. 団円

この油印抄本の江西省九江青陽腔「白兔記」は、現在は中国でも日本でも容易に見ることのできない貴重な資料である。私が持っているのは、先に述べたように、現物を所蔵している九江学院の劉春江教授に、譲ってもらった複印である。福満（2012, 2013, 2013, 2014）で、それを少しずつ刻字してきたが、それも過ちが少なくなかった。それで今回、この資料集に、再校訂した全文を最初から最後までまとめて載せて、読者の便に供したい。そしてこれで、江西省九江青陽腔「白兔記」の刻字の、最終完成稿としたい。

参考文献

- ・ 流沙「従江西都昌、湖口高腔看明代的青陽腔」（『戯曲研究』1957年第4期）
- ・ 劉春江『湖口青陽腔』（江西人民出版社、2008年）
- ・ 福満正博「江西省の九江青陽腔白兔記（1）」（『明治大学教養論集』485号、2012年）
- ・ 福満正博「江西省の九江青陽腔白兔記（2）」（『人文科学論集』59輯、2013年）
- ・ 福満正博「江西省の九江青陽腔白兔記（3）」（『明治大学教養論集』494号、2013年）
- ・ 福満正博「江西省の九江青陽腔白兔記（4）」（『人文科学論集』60輯、2014年）

江西省九江青陽腔「白兔記」

一出 登厂（場）

[正生、丑]

生：[上，引]平生志气吐虹霓，不负青云万里。[白]少年豪强不遇时，儿时腰下佩金鱼，男儿立志安天下，必扫千军盖世奇。小生，家住徐州沛县沙陀村人氏姓刘名高字志远，不幸父母早丧流落江湖，这也不需细表，今日天气晴和，不免转至酒楼，一行一出二三里，烟村四五家，楼台六七座，八九十枝花。米此已是，酒家哪里？

丑：[上]米多有多，钟敲钟，手敲手。原来是个叫鸡公。

生：绣衣公。

丑：不错，是个绣衣公。相公请进，相公敢是来吃酒？

生：正是。报酒名上来。

丑：葡萄绿，竹叶青，状元红。

生：拿状元红来。

丑：读书之人，喜的是状元红。伙计，拿状元红来。相公，待我敬一杯。

生：有劳。[介]多少酒钱？

丑：三钱银子。

生：我这有五钱银子，登在流水帐上面，下次还来吃酒。

丑：是的。

生：清水困蛟龙。

丑：寄在我店家。

生：连饮三杯酒。

丑：相公你可醉？

生：沉醉如东风。

丑：少送了。

生：少陪了。

[下]

二出 賭钱

[小生、付、正生]

小：天出对，精光棍。

付：賭博场中我二人。

小：我乃千里眼。

付：我乃顺风耳。

[全白] 今日天气晴和，不免将賭钱招牌并起，大賭三千贯，小賭五百文。

生：[上] 一生生来好賭钱，赢得钱来也枉然，二位大哥在此做什么？

小、付：在此要钱。

生：怎样要法？

小、付：看招牌。

生：大賭三十贯，小賭五百文。

小、付：相公，大賭还是小賭？

生：小賭一场。待我好下头来。喂我的头，二位下坠。

小、付：我这里一串钱，每人五百一把抓。

生：照着大摆对。

小、付：相公何不大賭一场？

生：未曾带得稍来。

小、付：你头带得也是稍，身上穿的也是稍。

生：衣帽也算得稍？

小、付：算得稍。

生：相公与你大賭一场。待我脱将下来。

付：相公，我交道，你青龙会上要钱。三岁孩儿赢了霸王钱，无许耍赖。输了老婆贴个枕头，输了香火贴个祠堂，到了手。

生：脱下来不賭。

付：怎么不賭？

生：我还未曾动手，你就讲到了手。

小、付：我是讲衣服袖子套了手。

生：是这等讲。

小、付：重新老头。喂，我的头，相公下坠。

生：有什么下坠？衣帽一半，钱一把抓。

小：相公做两把抓。

生：相公喜的一颗顶。

付：你瞧了，哎，五子一色。

生：二位大哥请问。

小、付：做什么？

生：一串钱你拿去，衣帽把还我。

付：歇到你的。方才讲过了，青龙会上耍钱，无许耍赖。三岁孩儿赢了霸王的钱，无许耍赖。输了老婆贴个枕头，输了香火贴个祠堂。喂，你个二龙戏水。喂，你个双凤朝阳。

小：伙计走，他不晓得赌钱。

生：这是不要紧。待我转至马王庙中一行。行行出出，出出行行，来此已是，待我进去。神灵在上，弟子各宜恭敬。云堂有笔，待我题诗一首。游玩江湖有数秋，风波浪里占鳌头。若得贵人来提拔，犹如平步上瀛洲。刘高题。那厢散愿的来了，待我庙后躲避一时。

[下]

三出 完愿

[外、净、生]

净：[上] 扫地恐伤蝼蚁命，爱惜飞蛾纱罩灯。我乃马王庙老道是矣。今乃三六九日，恐有施主前来，在此俟候。

外：[上] 为了女儿事，前来叩神灵。

净：员外，到了，敲钟摇鼓。

外：神灵在上，弟子呵。[吹介]

净：员外，灯烛光明，又是一年吉庆，请至后堂吃茶。

外：这里有诗句一首，待我看来，游玩江湖有数秋，风波浪里占鳌头，若得贵人来提拔，犹如平步上瀛洲。此人好大的口气。

内：请员外吃茶。

外：来了。

[下]

四出 盗鸡

生：[上] 一口不害羞，三餐饱悠悠。此前有一福鸡，待我盗去。老道，散愿的来了。

净：徒弟，殿上有一福鸡，你可收拾？

内：未曾收拾。

净：你这汉子，员外拿来散愿的福鸡，你为何盗去？

生：是我拿来散愿的。

净：你可叫得应，就是你拿来散愿的？

生：讲定了。

净：讲定了。

生：鸡，我刘高日后若有好处，大叫一声。[叫介]

净：这熟鸡他也叫得应。你叫得应，我也叫得应。

生：你就叫来。

净：鸡我老道口后若有好处，大叫一声，鸡祖宗、鸡老子。叫不应，招打。[打介]

外：[上] 你二人为何厮闹？

净：员外有所不知，你拿来的福鸡他盗得去了。

外：他拿来的也是你的，我拿来的也是你的。

净：员外，他是你家何人？

外：是我家外甥。

净：恼恨员外太无知，带个外甥盗福鸡。若不看马王菩萨面，我就要骂你。

外：骂我何来？

净：骂你这老扒灰。

外：老施主。

生：有劳员外大救。

外：你这汉子，家住哪里，姓甚名谁？

生：家住徐州，沛县人氏，姓刘名高字志远。

外：前面诗句，可是你题的？

生：乃是小人题的。

外：为何一身落薄？

生：只因好赌身穷。

外：下次不可，你可不转到我家一行？

生：萍水相逢，怎好打扰。

外：这也无防。我今将你米提拔。

生：免的一身落无泥。

外：随我来。

[下]

五出 带归

夫：[上] 员外去散凡心，未见转回程

外：[上]，生：[上]

外：散愿转回归心中多欢喜，少散一时。

夫：员外回来了。

外：回来了。

夫：员外今年散愿如何。

外：今年散愿灯烛光明，又是一年吉庆。

夫：员外为何这等欢悦？

外：非我这等欢悦。因我在马王庙中见一汉子，生得美貌堂堂。是我带得来了。

夫：今在哪里？

外：在门外。

夫：何不请来相见？

外：有请刘大哥。

争：□□□□

生 [上] 员外这是何人？

外：是我安人。

生：安人这厢有礼。

夫：罢了。何曾过午？

生：未曾。

夫：后堂茶饭。

生：谢过安人。

夫：员外带他回来，则甚？

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

外：我看此人日后必有好处，三弟能识相法，接他过堂观看一相。若有好处，留在身边。洪信做一帮手。

若无好处，一餐午饭打发他回去。

夫：此计甚好。

外：有请三员外过堂。

争：有请三员外过堂。

末：[上] 兄弟分居有数年，将身来到两堂前，兄长这厢有礼。

外、夫：这厢（？）请坐。

末：告坐。兄长今年完愿如何？

外：灯烛光明、又是一年吉庆[笑介]。

末：兄长为何这等喜欢？

外：非我这等喜悦。我在马王庙中见一汉子、生得美貌堂堂、因此把他带来了。

末：那人姓甚名谁？

外：姓刘名高字志远。特请贤弟观看一相。若无好处、一餐午饭打发回去。

末：今在哪里？

外：在后堂、有请刘大哥。

争：有请刘大哥。

生：[上] 员外这是何人？

外：乃是我三弟。

生：三员外这厢有礼。

末：罢了。转至后面。

生：谢过三员外。

外：三弟要真看。

末：[笑介]

外：三弟为何发笑？

末：我看此人龙行虎步，必有好处。恭喜兄弟。第一贵客前来。

外：不知他的力量如何？

末：试他力量倒也不难。我家一红鬃铁马走在卧龙岗上，数年无人收服。命他前去收来。

外：此计甚好。

末：有请刘大哥。

生：员外何事？

末：鞭韠（纆）一事你可熟悉。

生：略知一二。

末：兄长有一红宗（鬃）铁马走在卧龙岗，数年无人收服。命你前去收来。

生：员外我只收马，不看马。

末：只要你收马，不要你看马。

生：要备挽手一用。

末：挽手在此。收服骅骝，莫惮劳。

外：今后不可叫刘高。

大：若还收得此马转。

生：化作红尘万里高。

末：嫂嫂请至后面，你我转至口场一行。

[下]

六出 收马

生：自幼生来志气高，全凭武艺逞英豪。若还收得此马转，方显沛县一刘高。俺刘高，领了员外命，收服红宗铁马，待我转至高坡一望。此马乃是青龙兽下凡。待我讨下吉兆。马，我刘高门后若有好处，大叫一声（唱介）（马叫）收马敢惮劳，待我靠马打睡一时。

末、外：[上]

末：刘高美少年。

外：容貌真堪羨。

末：那个孽畜眼也红了、唤刘高醒来。

外：[全]刘大哥醒来。

生：何人盗马来？啊，原来是员外到了。

外、末：[全]将马收了。

生：领命、马来。

末：此人好力量。要想什么好主意、将他留下。

外：多托他田地种。

末：一非种田之人。

外：多把银子与他做买卖。

末：二非买卖之人。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

外：那无计可留。

末：可惜也可惜。

外：可惜什么？

末：可惜我老三未曾养得有女儿。

外：依你之见、难道将女儿许配与他。

末：正是。

外：恐儻嫂嫂不肯。

末：那我有个主意。

外：有何主意？

末：我二人假意厮打起来、嫂嫂乃是贤德之人、必定前来劝解、讲来讲去、讲到这个人头上来了。

外：此计虽好、试试看。

末：兄长可在家中。

外：三弟来了。进来请坐。

末：谢坐。

外：三弟到来何事？

末：为秋娘之事。

外：要等洪信回来。

末：他一年不回。

外：就要等一年。

末：他十年不回。

外：也要等十年。

末：那就等不得。

外：等不得也要等。

末：我就打死这老不死的。

夫：[上] 你二人为何厮闹。

末：人到你家来茶也没有一杯。

夫：那我拿来。

末：请问。不是这个茶。

夫：什么茶？

末：花饼茶。

夫：三叔，我家又男婚女嫁哪有花饼茶。

末：那我与三侄女做媒。

夫：哪一家？

末：前村刘家。

夫：叫何名字。

末：姓刘名高字志远。

夫：莫非就是我家收马的刘高。

末：正是。

夫：那我孰不肯。

外：我也不肯。

末：嫂嫂不肯倒也罢了。你也不肯。我就打死你这个人。老不死的。

夫：三叔不要如此。老身允了就是。

外：我不瞒你，我是多久就允了。

夫：你二人打伙弄琵琶，弄我这个好道家，还有一事。虽我尤（由不）得允了，不知女儿意下如何。

末：我又有个主意。

外、夫：有何主意。

末：命刘高画堂摆画（划）扫地。三口（姑）女必定口面面觑、肯与不肯在丁玲口肉。

外、夫：此计甚好。

末：有请刘大哥。

生：三员外何事？

末：兄长明日贵客临门。我出打扫画堂。烦你为我迎客。

生：那就不敢。有事弟子服其劳。要备扫帚一用。

末：扫帚在此。明日兄长贵客临门。

外：烦你打扫地埃尘。

夫：画堂无许闲人进。

生：员外安人只恐帘内有佳人。

末、外：好个帘内有佳人。

外：请至后面待茶。

下

七出 扫地

生：[上] 自恨生来悔不才、衣衫褴褛好伤怀。堂前扫地人轻贱、只为赌钱到此来。卑人刘高。领了员外之命、打扫两堂。不免前去走走。正是“天上神仙府、人间宰相家。若要真富贵、除非帝王家。”米此已是两堂我看四壁古画，俱是颠倒乱挂。想是员外试我才学。待我收米打扫，从头再挂。

[□□□□□]

生：俺只见两堂空寂，闲人到此稀。因甚的尘埃堆积，想到是燕子衔泥，因此上误（污）却了阶前地，待我下帚轻扫。□□灰尘飞起。[白] 我看灰尘太重，待我将水洒扫，内面有人请了。

占：[内] 请了做什么？

生：借水一盆，借盂一个。

占：花瓶有水，架上有盂，自家去拿不要惊怀我的红口。

生：那我知到。[唱] 待我先将水洒，后扫灰尘，也免得灰尘飞起，将人眼蒙闭，我也细思知。将身出踏平步地，扫地堂前有谁知，有谁知。

旦：[唱] 往常见灰尘满地，风吹起缠衣，今日里人来扫地，全不见半点灰尘。

占：小姐寸金莲。

旦：[唱] 非我寸金莲行来无踪迹。试看那人执帚，人品高奇。相他不是下流之辈。

占：小姐你道那人不是下流之辈，听我丫鬟道来。[唱] 昨日在我草地牧马，今日又在我两堂前来扫地。试看那人身无所依，身无所依。

旦：哎，哎，丫头，休笑江湖客，其中有官家。前人创业与儿曹。后人不守枉图（徒）劳。纵有家财千万贯，不够赌搏场中走一遭，走一遭。丫丫头，都只为好赌倾家，才弄得一身狼狈。

[白] 丫头我将那人好有一比。

占：好比何来。

旦：[唱] 那人好比大鹏之鸟，三年不飞，飞上九霄。三年不鸣，鸣则惊人。丫头你也去细思知。大鹏来展冲天翅。九方鹏程终有期，终有期。

生：[唱] 深谢大公美意，相逢携手归。[挂两介]

生：[唱] 实只望另眼相看，又谁知轻贱为泥。昨日命我草场收马，今日又命我两堂前来扫地。[白] 喂，我想看马扫地，岂是我刘高所为。待我弃帚而去。

占：[内白] 咳咳，你这汉子吃了人家饭，穿了人家衣，画不挂，地不扫，还讲什么弃帚而去。此处倒有个孝员外，收留与你。难道前面还有个员外留与你不成。又道任君走尽天涯路，运不通时，到处难，到处难。你还要耐（细）烦。

生：倒是君子，反被小人所论。

占：难道金刚菩萨不成。

生：[唱]哦，好个人君走尽天涯路。运不通时到处难，想当初韩侯未迁（遇），曾受人胯下凌辱。到后来弃楚归汉拜相登台。显威风显威风谁能比。自恨我身怀创业，怀创业，异口若得施为，决不效三
 千干独贵。我也去细思知。蛟龙才落沙滩内，得会云上天时，上天时。

占、旦：[内白]咳咳，你这汉子，扫地不带眼睛，扫在人家房门口来了。

生：少时闻知他家有一个红梅嫂，莫非就是她。红梅嫂卑人这厢有礼。

占：我是见不得礼的。

生：你这好人，怎么见不得礼的。

占：我打哑谜。你去猜来。

生：你就打来。

占：三分银子一箍。

生：敢则是梅香。

占：正是。

生：梅香，下次见了刘相公，要垂首相见。

占：你怕我，当真见不得礼。我家员外把小姐许配与你是假的。把奴家许配与你是真的。

生：你好丑货。

占：人貌虽丑，货有九九。多少大相公想我不到手。刘大哥听我辱你。

[唱]刘大哥，生来痴又痴。全然不受其中意。我则有你心，你还无我意。若有小红娘，我与你凑。

生：凑什么？

占：凑成一本西厢记。

生：奴婢休要逞英雄。

占：你命也与我命同。

生：千年为奴婢。

占：万载你去打。

生：打什么？

占：打长工。

生：哪个打长工？

占：刘大哥打长工。

生：我就打死你这个丫头。

占：小姐快来。

旦：你这贱人为何打他。

占：刘大哥不是个好人。瞧了我一小眼，还瞧了小姐一大眼。

旦：还不下去。

占：我就下去。

旦：我好想他。

占：我也爱他。

旦：你是怎么爱得他。

占：小姐想得他，我也爱得他。

旦：还不下去。

占：我就下去。让你一个人去想他。

旦：[唱] 我想他不是尘埃俗子。恨爹娘有眼无珠，有如白壁染光辉。谁人不把金蟾戏。骅骝欲逞荆棘满地。蛟龙欲变风云不会。终须到有天衢口。[尾声] 鹊桥高架银河渡，牛郎织女会有期。盼看牛郎无归期。

夫：儿呀，有归期，口女儿带笑回去，想是允了。员外回来，就说女儿不肯。好骗三叔的媒钱。

外：正是“有意栽花花不发，无心插柳柳成荫。”

末：坐在你家不动身。

外、夫：三弟、叔，贵（实）是做媒的。

末：好呀，你来骗我的媒钱。

外、夫：洪信回来，怕他不肯。

末：他是听得哪个的话。

外、夫：他听得张家媳妇的话。

末：我又有一个主意。命张家媳妇抛锣帐。许她青钱一束、色衣一套、耳玲一付，洪信回来要她担代。

外：此计甚好。张家媳妇哪里？

丑：[上，讲叔] 忽听堂上唤声忙，云步打扮出口房。深深拜拜高堂，为愿公婆烂肚肠。

外、夫：富寿长。

丑：烂肚肠，烂肚肠。

夫：万福。

丑：叫我出来何事？

夫：三姑娘招了刘姐夫。

丑：三姑娘招了刘都督。

外、夫：刘姐夫也就够了。许你青钱一串、色衣一套、耳玲一付，洪信回来要你担代。

丑：他虽是我的丈夫，我讲的话他也不敢违拗。

外、夫：好话多讲。

丑：一块沉香木，雕成一马鞍。新人来交拜。四季打脾寒。

夫：保平安。

丑：贵人去步。

[生、具拜介][口介]

丑：先拜天地，后拜高堂。夫妻交拜，同入洞房。

[下]

[丑上吹箫，占二肩进房] 主母、三姑娘今朝节门命系抛锣洒帐。

丑：看我的六谷盘来。

占：五谷盘。

丑：今年年岁丰收一盘。

占：还是五谷盘。

丑：众家姊妹，我的咽喉不好，与我帮腔。

占：帮腔。

丑：一洒风调雨顺，二洒国泰民安，三洒五男二女，四洒七子团圆。洒帐东，好个洒帐东。东边端头一颗葱，新人不抬头，想是怕婆公。啰哩啰哩溜溜哩溜哩！啰哩溜哩！一么啰溜哩！一么啰呵溜哩！一么啰哈溜哩。

[拍节] 洒帐南，好个洒帐南，中间摆的象牙床。象牙床上铺锦被，锦被底下耍鸳鸯。[尾韵同前]

[口口] 洒帐西，好个洒帐西，新人今晚把头低。八幅罗裙高扎起，鸟鱼进洞笑嘻嘻。[尾韵同前]

[拍节] 洒帐北，好个洒帐北，牡丹开花有颜色。新人不抬头，想是生得黑。[尾韵同前]

[拍节] 洒帐上，好个洒帐上，光头和尚来告状。八字衙门大大开，哪怕一撞又一撞。[尾韵同前]

[拍节] 洒帐下，好个洒帐下，新人好比打油榨。加上一枝檀木头，哪怕一下又一下。[尾韵同前]

[大口口] 洒帐中，好个洒帐中。新人好比一把弓。加上一枝茅头箭，箭箭射在玉池中。[尾韵同前]

[拍节] 洒帐前，好个洒帐前。新人今晚把渡船。总照新人掌舵稳，哪怕狂风浪里颠。[尾韵同前]

[拍节] 洒帐后，好个洒帐后。新人下面淌水沟。一条黄鳝来汲水，两个螺丝后面丢。[尾韵同前]

(弦纽) 洒帐左，好个洒帐左。新人好比一把锁。钥匙刚刚套进去，哎哟哎哟真相当。[尾韵同前]

[拍节] 洒帐右，好个洒帐右。两个媒人被婚求。今晚好酒不劝你，明朝糍粑搭你头。[尾韵同前]

[拍节口] 洒帐已毕。

占：[看(摇)] 万事大吉。

丑：早生贵子。

占：[看(摇)] 状元及第。

丑：众家姊妹，到我房中去睡。

占、二肩：到我房中去睡。

丑：好，到你房里去睡。

[下]

八出 玩花

生：[上] 喜色艳艳似酒浓，

旦：花影重重月影重。刘郎方福。

生：三娘少礼，请坐。

旦：同坐。

生：闻知令尊新造花园，卑人欲借一观。不知三娘意下如何？

旦：不足刘郎美观。

生：休得过推。定要借观。

旦：妾身奉陪。

生：快马着一鞭。

旦：平步上青天。

生：漫道登科早。

旦：嫦娥爱少年。

生：好个嫦娥爱少年，未曾带得就来。若是带得酒来，一则观花，二则饮酒。

旦：村中有酒。袖内有钱，你去沽买。[唱] 我这里将钱，你去酤酒，借问谁家？

生：[唱] 三娘妻。你且站立柳荫中。卑人前去问童牧。[白] 童牧哥请了。

哑巴：~ 哪里有酒沽？

~ 想是前面杏花村。

~ 多少路远？

~ 想是五里之遥。

~ 卖多少钱一平（瓶）？

~ 想是三分银子。

~ 你为何哑了？

~ 想是南山南山砍樵吃多了凉水。

~为何不请医生治调？

~想是腰中无钱。

~我这里有儿钱银子把与你？

~你姓什么？

~想是吕。

~叫何名字？

~想是叫吕中口。

~那是我的娘子。

~你这够才。

旦：刘郎牧童是个哪巴。问他则甚？

生：[唱] 牧童虽是哑不能言，犹如白口问神仙。借问酒家何处有，牧童遥指杏花村。

旦：刘郎，前面高大房子什么所在？

生：清风市。

旦：摆来摆去是什么东西？

生：卖酒的招牌。上有字迹。一同看来。

[同唱] 上写着。浪苑蓬莱沽美酒，醉逢归去月儿高。刘伶问道谁家有，太白回言此处高。

生：[唱] 未曾带得酒壶米，若是带得酒壶米。我提壶你把盃。与三娘吃得个人醉东风也啰。

[白] 三娘哪里好玩耍？

旦：庄门外。

[同唱] 双双同往庄门外。

[吹介]

旦：刘郎，那里吹打热闹。

生：王孙公子奏乐，乐声未尽。

旦：[唱] 一出门来百花开，王孙公子奏乐来。夫妻二人同玩耍，笙箫鼓乐闹啾啾。

[同唱] 他那里乐声相送，我这里两情口（正）容（浓）。夫妻偕老琴调瑟弄，双双口（栖）过鸾和风。

生：三娘，还有哪里好玩耍？

旦：花园内。

生：一同转过花园。

[同唱] 双双同往花园内，百花开放满园红。桃红柳绿皆相似，一枝分为两朵红。玩赏桃花映水红，好
朵鲜花映水红。

旦：好花，好花。

生：三娘，连叹数声好花，莫非有爱花之意。那旁有枝何不攀将下来？

旦：待我攀来。

生：花台甚高需要仔细。

旦：那我知道。〔唱〕我将玉手攀花枝，此花付与刘郎手。

生：三娘，为何付与我手？

旦：难道插花人，自己插戴不成？

生：言之有理。戴起此花，你丈夫有个比方。

旦：先比后戴。

生：三娘妻，你我二八青春美，年少夫妻。千里来相会，望三娘早生麒麟子，接代刘高一宗旨。与三娘斜插。插在乌云鬓，好一似彩鸾丹凤。

旦：刘郎，又道人要成双花要成对。那旁一枝何不攀将下来？

生：待我攀来。〔唱〕我今将手攀花枝，此花付与三娘手。

旦：刘郎为何攀花付与我手？

生：男子汉不戴山花野草。

旦：戴了此花妻子有个比方。

生：先比后戴。

旦：〔唱〕哦，刘郎夫，你本是男子汉读书人。有口里登金榜。美名扬插宫花饮御酒，妻子专将此花当宫花。与刘郎斜插，斜插在帽子毡下，好一宿似彩鸾丹凤。夫妻借老琴调瑟弄，双双口（柄）过鸾和风。〔尾声〕一条红线落江中，未钓鲤鱼先钓龙。〔白〕有缘千里来相会。

〔生、旦：刘郎、三娘，同唱〕我和你百年夫妻永和同。

〔下〕

九出 逼 休

〔丑 净 生〕

丑：〔唱〕（讲报）沙陀村，一层绢，头上包青片，扯绫罗，做裤穿。人人道我轻贱，那是什么轻贱。

〔白〕我乃张氏便是，只因官人去后，管家的犬也死了，报晓鸡也死了，公婆也亡故了。我也哭不得许多，待我关起门，串起来哭。管家的犬、报晓得鸡，八十岁的公公老教骡。

净：〔上〕算帐转回归，来到家门地，老婆开门。

丑：哎呀，官人回来了。

净：老婆我不在家中，为何啼哭，只怕是思春。

丑：还是思冬，官人有所不知。自你去后，世事大不同了，管家的犬也死了，报晓的鸡也死了，公婆也亡故了。

净：哎，老爹娘呀 懒哭得。

丑：怎么懒得哭。

净：人人道我李洪信不死老子 总不得出头。

丑：那还是小事。

净：还有什么大事。

丑：三姑如招了刘姑夫。

净：还好有帮手。

丑：还是帮脚 你这个歹老公，岂不占了我的家财去了。

净：这到果然，要想什么主意。

丑：我到有个注意。

净：有什么主意？

丑：你去叫他写个休书便罢，如若不然，打死老婆徒（图）赖与他。

净：老婆我是怎么舍得打你。

丑：无非是这等讲。

净：你去叫他去来。

丑：有请刘姑夫。

生：[上] 舅母高声叫，未知有何音，舅母何事？

丑：你大舅回来了。

生：大舅这厢有礼。

净：那个是你的大舅，王八乌龟是你的大舅。

丑：你本是他的大舅。

净：老牛。

生：老刘。

净：不错是老刘，你为何坐在我家中堂？

生：我是你家坐郎女婿，可以坐得。

丑：坐郎女婿可以做得。

净：老婆讲坐得就坐得，你为何与我三妹子狗窝里缠筋。

丑：勾合成婚。

净：不错，是勾合成婚。

生：乃是三叔为媒、舅母抛罗洒帐，得了青钱一串、色衣一套、耳环一对，何为勾合？

丑：得是得的。我李家的又不是得的你刘家的。

净：今日写下休书便罢。如若不然，打死老婆图赖与你。

生：打死十只当五双。

净：老婆那钥匙开皮箱拿银子。

丑：做什么？

净：他讲到打死十个只当无双，岂不要讨九个凑。

丑：他是讲大话，打死一个再来。

净：老牛退不退？

生：不退。

净：不退，打死一个再来。

生：只管去打。

净：慢着，老婆喂，他叫只管去打。

丑：你这个歹老公，我教导你，你在这边打，东打西疼 西打东疼，不打不疼，越打越疼。

净：这是个好主意 牛的脸。

生：刘志远。

净：不错，刘志远，你写不写。？

生：不写。

净：不写老婆招打。

丑：哎喏，打坏人。

净：招（找）槌子。

丑：打坏了人。

生：大舅，你在那边打，她为何在这边叫疼？

净：你不知道，我这个拳法在哪里学来的？

生：我不知道。

净：你不知道，我在茅山学法学到的。名为隔山照，东打西疼、西打东疼、不打不疼、越打越疼。

生：这等好拳法，我站此间，你在那厢打来。

净：慢些，你坐一下，老婆不中。

丑：怎么不中？

净：他叫我打他，怎么打得他疼。

丑：你这个岁老公，总没有话讲，我教导你，你道（倒）下山知（之）时，师父说到（道）洪信你的性情不好。你这拳法只打的自家人，打不得别家人。打了自家人，姻缘相合。打了别家人，招灾惹祸。

净：这是个好主意。老刘，我这等拳法只打得自家人，打不得别家人。打了自家人，姻缘相合。打了别家人，招灾惹祸。

生：三妹子是你自家人，你去打来。

净：老婆不中不中，他叫我三妹子，老婆只怕要挨两下。

丑：我可知到（道）打老婆的槌。

净：我不知道。

丑：要空心槌子。

净：要空心槌子。

丑：高高举起。

净：高高举起。

丑：轻轻放下，不要打重了。

净：若是打重了？

丑：我不要你进房。

净：我偏要进房？

丑：我不要你上床。

净：我偏要上床 我怕你把个冷屁股冰我。老刘你写不写？

生：不写。

净：不写的话，你这狗入的老婆，我不在家中，你干出这个好事情来，招打。

[打介]

丑：刘姐夫写了罢。

生：大舅不要如此 待我写了罢。拿文房四宝来。

净：老婆拿文房四宝来。

生：[写介] 刘高通礼人。

净：慢些 你往洞里一钻，我到哪里去找你的尾巴了。

生：要怎样？

丑：要同乡共礼。

净：老婆讲写得就写得。

生：岳父岳母恩爱深 无端大舅新狼狠逼写。

丑：逼写要不得。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

生：要怎样？

丑：要勒写。逼写岂不是我夫妻二人逼你写的。要换个勒写。

净：这到果然。老刘，难怪你烂笔头子，逼写岂不是我夫妻二人逼你写的。要换个勒写。

生：勒写休书退还亲，写休书好寒心，甯与官司辨假真。写起来了。

净：老婆，写起来了。

丑：漫道一张、十张、百张，也是无用的。

净：怎么无用？

丑：以是自头的。

净：要怎样？

丑：要打上手掌脚模。

净：这到（倒）果然。老刘，我家老婆讲到，以是个白头的，要不得。

生：要怎样？

净：要打手掌脚模。

生：自己的郎舅不要如此。

净：喂，退了亲，还有什么郎舅。

生：牵开纸来。

[唱] 愁多，怨多。刘志远，不是卖老婆。打什么手掌，合什么脚模。

[下]

净：不好了，打在脸上来了。

丑：套将下来。

净：是个反把（巴）掌。

丑：他也是五根指头，你也是五根指头。

净：[唱] 牵开低（纸？）米，谋多计多。李洪信。

丑：刘志远。

净：刘志远，又不是卖老婆。打什么手掌，合什么脚模。

丑：摸摸你娘的臭脚板，千计万计，弄一张破纸，我不管你的闲事。

净：老婆，你不管我的闲事，我就没得屁。

丑：没得计，要我用计。你就要跪我一跪。

净：这里人多，到房里去跪。

丑：也罢，到房里去跪。

净：[唱] 求计较，跪老婆。

丑：[唱] 李家庄上一条河，哪有老公跪老婆。

净：[唱] 非是老公跪老婆，尖吼（嘴的）老婆尿尿上。

丑：计巧多起来。

净：老婆用计。

丑：要我用计，你去赶他回来。你讲家财大义不大，小义不小，上、中、下三等田园，并作三股均分。

上等田园三叔养老，中等田园当差纳税，下等田园自己农种。内有百亩瓜园，分在三妹子名下，以制（致）嫁妆。公婆在世，三年一小祭，五年一大祭。自从公婆出（去）世以后，无人祭扫，内有瓜精吃人。你与他饮酒之时，我去报到，看瓜之人，反被盗瓜之人所伤。他必定前出看瓜，瓜精吃了他。

净：此计甚好。你在家中整顿无情酒。

丑：你到途中赶他回。

[下]

十出 露（看）瓜

[生、净、丑]

生：大舅太无情，逼写休书退还亲。

净：刘姐夫回来。

生：不回来。

净：回来吃酒。

生：有酒我就回来。

净：老婆开门，刘姐夫回来了。

丑：刘姐夫回来了，方才得罪莫怪。

净：莫怪。为何怪在，姐夫怀内去了。

丑：自家姑父无妨。

净：姑父弄舅母，外面广多，拿酒来。

丑：待我拿酒来。

生：大舅赶我回来则甚，非为别事。只因家财大义不大，小义不小，田园并作三股均分。上等田园三叔养老，中等田园当差纳税，下等田园我自己农种。三妹子到你刘家去，也没有办得嫁妆，百亩瓜田分派她名下以制（致）嫁妆。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

丑：报吓。

净：报何来？

丑：看瓜人，反被盗瓜之人所打。

净：刘姐夫 少陪了。

生：那（哪）里去？

净：前去打剥皮的汉子。

生：且慢，百亩瓜园分在三妹子名下，应打该我去，只因酒不充量。

净：老婆拿大杯酒来。

丑：酒来了。

净：刘姐夫吃酒要一个尽。

生：怎样吃法？

净：要吃一个流星赶月，赶上便罢，如若不然，罚酒三杯。

生：请干。

净：对着舅母心肠要罚酒。

丑：酒到。

生：流星。

净：赶月。

生：星月酒一齐干，大舅请。

[吃介]

净：刘姐夫可用酒。

生：不用，有什么器械拿得来？

净：老婆有什么器械？

丑：我家有个做鬼，叫的闷门杠子。

净：你去拿得来。

丑：在此。

净：刘姐夫护身龙在此。看瓜之事、吃酒原因，不要对三妹子讲。

生：那我知道。

净：匆匆忙忙劝酒二三钟。

生：要往瓜园逞英雄。

丑：此事但凭心头愿。

生：瓜精死在我手中。

净：他路也行不得，怎么打得瓜精，又跌了一跤，跌也跌死了他，待我赞他几句，刘高去看瓜。

丑：瓜精吃了他。

净：三妹子我去卖。

丑：卖的银子我去拿。

净：多些就好。

丑：少些也罢。

净：花配花，

丑：柳配柳。

净：破粪（畚）箕，

丑：旧扫帚。

净：这对夫妻，

丑：世间少有。

[下]

十一出 扭 棍

丑：[唱] 自与刘郎偕连理。恩爱如鱼水。哥嫂用谋计，将我夫妻拆散鸳鸯对。我好伤悲。止不住双流泪。

生：[上唱] 盖世英雄谁能比。自恨我时运不利。大舅用谋计，将我夫妻拆散鸳鸯对。

[白] 方才大舅说到，看瓜事情、吃酒缘（原）因，千万不要对三娘讲。

[唱] 又道夫妻夫妻，有话同知。我是怎的不说，怎的不讲，我只得，暂行几步，见三娘。我要把，看瓜之事、看瓜原因，一桩一件细说三娘听。

[白] 三娘开门。

丑：来了。

[唱] 刘郎，你在那里转回来。因甚吃得沉沉。你在外面多快乐，别的妻子在家中，受折磨来受折搓。

生：[唱] 说什么，受折磨来受折搓。刘志远，今朝有酒今朝醉，明日无米明日愁。我和你年少以夫妻，随高就低随时过。

丑：[唱] 你把闲言都抛却，妻子扶你兰房坐。

生：木棍站住。

丑：刘郎，木棍怎样站得住。

生：三娘，拿酒来。

旦：想是要茶 待我拿来，刘郎请茶。

生：三娘 我的手在那里。

旦：手在这里。

生：星干，月干，星月酒一齐干，大舅请。

旦：刘郎，此乃是茶，不是酒。

生：我与你少年夫妻茶也当的酒。三娘，你枉为大户人家女子，丈夫回来，礼也不见一个。

旦：我看刘郎酒醉心里（不？）明，待我向前见下一礼，刘郎万福。

生：三娘请起。

旦：〔唱〕你好似纸蝴蝶满天墜。椅（依）靠栏杆，椅（依）靠栏杆坐不稳。好一似，风吹杨花景，飘飘荡荡，没定准。早知君误人，悔却当初错嫁君。

生：再嫁不迟。

旦：〔唱〕刘郎。又道人被酒醉，难道再也闭了不成。我说到早知君误人，枉费爹娘三叔一片心。

生：忘却什么？

旦：〔唱〕哎，冤家。你还说你忘却甚么而来，你在前堂写下休书，妻子在屏风后面瞧见，恨不得向前一把扯碎与它。怎奈哥是大，奴是小，欲言不敢言，欲语不敢语，你妻子背地里顿足捶胸长声短叹，长声短叹，泪不干。

生：〔唱〕三娘，你是妇人身。逐理机关，怎知明。假意与他相和顺。田园产业三股分。

〔白〕三娘，我受不得一人之气，难忘三人之恩。

旦：那三人？

生：听道。

〔唱〕一难忘，岳丈岳母恩情深。二难忘，三岳丈为媒证。三来难忘，三来难忘，结发情。

旦：既是三难忘，为何写下休书？

生：那不是休书，是哄你哥嫂一张谎状。

旦：你可记得。

生：自己写的怎得不记得？

旦：何不念来，我听。

生：三娘听道。

〔唱〕上写着 刘志远通礼人。岳丈岳母恩情深。三岳丈为媒证，愿将侄女配为婚。无端大舅心狠狠，逼写休书，勒退亲。手而写，心儿明，笔尖似刀，不顺情。

〔白〕三娘，你哥嫂如同和睦了。

旦：怎样和睦？

生：田园产业并做三股均分。

旦：那三股？

生：上等田园三叔养老。

旦：中等？

生：中等田园当差纳粮，下等田园哥嫂自己农种。外有百亩瓜园分在三娘名下以制嫁妆。方才吃酒之时，舅母报到，看瓜人反被盗瓜人所伤，待我前去打个道不平的好汉。

旦：哎，转了。刘郎瓜园虽有，往常爹娘在世，三年一小祭，五年一大祭，自从爹娘辞世以后，无人祭扫。内有瓜精吃人，千万不要前去。

生：此话怎讲？

旦：有瓜精吃人。

生：不讲起瓜精则可，讲起瓜精我的酒就醒了。

[唱] 口口闻说瓜精怒气冲冲似火焚。怕什么，妖魔鬼怪，见了咱们一命难存。我不去打瓜精，要那英雄来则甚。休阻行程，言三语四叨叨论。[一 卅]

旦：[唱] 刘郎，胆有天样大。神鬼哥儿全部怕。惜有虎豹遇天神，此事无虚假。你今一心去看瓜，怕只怕，英雄丧在瓜园，英雄丧在瓜园。[三 卅]

生：[唱] 三娘，你是妇人家。见说我来见阻挠咱。我今不去看守瓜，你哥嫂，把我当作，孩童耍。

[白] 三娘，有比方说来你听。

旦：有何比方？

生：昔有我祖汉高皇，行至芒砀山下经过，偶迁（遇？）蟒蛇挡路。我祖说到：蛇、蛇、你若有福，我遭你手。你若无福，你遭我手。言语未尽，把剑就斩，蛇分两段，血满山溪。到后来做到一朝人王帝主。

旦：刘郎你怎么比得他？

生：我来问你，那人姓什么？

旦：姓刘。

生：你丈夫。

旦：也是姓刘。

生：却有未（？）。

[唱] 五百年前共一家。不同宗旨也同华。山东将分山西相，彼丈夫来俺丈夫，他既做得，我是怎么效不得他来。三娘妻，我与他，同宗，一派华。劝三娘，免把心头挂，免把心头挂。

旦：[唱] 刘郎你好差。缘何不听，你妻子话。你今一心看守瓜，你妻子，没奈何，双膝跪在，尘埃下。

生：[唱] 三娘你好差。苦苦前来，阻挡咱。若念夫妻情，亲手送杯茶，不念夫妻情，但凭你心下，纵

有瓜精，纵有瓜精，我去拿。[介]

旦：[唱] 哥嫂你好差。苦苦设计，害却他。方才刘郎说得好不苦也。他说到，若念夫妻情，亲手送杯茶。

不念夫妻情，但凭奴心下，痛然然叫，我如何别得下，我如何别得下，也罢。

[唱] 赶上瓜园送杯茶。哎，刘郎，我夫，哎，夫哇。

[下]

十二出 瓜园别

[付、生、旦]

□□

付：[上] 镇守瓜园有数秋，多少英雄遭我手，今日刘高来到此，赠他兵书宝剑作邠州，俺，瓜王是矣。

远远观见，刘高来矣。

生：[上，杀介，付下]

生：果有瓜精出现，被我一棍打往（放？）蒙光入地而去，天还未明，将棍压在此间，等到天明在做调埋。

旦：[上唱] 赶上瓜园送杯茶。

[白] 刘郎在此打睡，谢天谢地，刘郎醒来。

生：瓜精又来了啊，原来是三娘来了。

旦：见些什么，

生：果然有瓜精出现，被我一棍打往（放？）蒙光入地而去，天也明了，一同看来。果有兵书宝剑，上有字迹糊涂。待我剖瓜看来，宝刀，赠与刘高，二八年后，大显功劳。还有兵书待我看来。迷沙陀有数秋，风波浪早占鳌头。此处不是藏龙所，速速登程往邠州。莫非我的功名在邠州？

旦：刘郎，我有三月怀胎在身。

生：若是生女，但凭与你。若是生男，修下血书着人送往邠州。

旦：可到家一别？

生：本待到家一别，怎奈你的哥嫂口齿不好，就在瓜园一别。我的马也来了。

【尾】

旦：[唱] 孤村寂寞空愁怨，冷落香归泪腮流，功名成就早回头。

[下]

[尖 卩 摆 卩 上 乃 介]

十三出 王彦章

[付、王]

[杂手上]

付：[上唱][点口]势力压中华。一曲琵琶。乌驹马。心宏胆大。一心佔中华。

[白]家住河北王彦章，手执铁篙（篙？）逞豪强。昔日黄河米摆渡，轰轰烈烈闹一场。俺，王彦章，只有岳元帅要战而不战，要降而不降。今日人强马壮，正好兴兵，前去夺取锦绣江山。众将。

手：有。

付：人马催动。

[下]

十四出 投军

[生、末、杂手人]

末：[上，□□介，吹介]

生：[上]此地招人马，扮作投军人。报，投军人近，帅爷在上，投军人叩拜。

末：报家庄，上来。

生：家住徐州沛县，姓刘名高字志远。

末：有何武艺？

生：十八般武艺件件皆能。

末：人米。

手：有。

末：后营缺少甚么军？

手：后营缺少甚么军？

内：缺下马头军。

手：缺下马头军。

末：赏你马头军。

生：小了，不愿使。

末：军无大小，论功升赏。

生：谢帅爷。

[下]

手：报。

末：报何来？

手：王彦章讨战。

末：再探。[二下] 查后人，何人出马？

手：后营何人出马？

内：勇之将，无人对敌。

末：打开盔甲，待本帅亲自出马。

生：[内，笑介]

末：后营何人发笑？

手：后营何人发笑？

内：马头军。

末：捆绑带上。

生：[上，介]

末：胆大的马头军，敢笑本帅用军（兵）不到。

生：非笑本帅用兵不到，笑只笑王彦章自不量力。此阵何用元帅出马？待小人前去擒来有何难哉。

末：松绑。

生：谢帅爷。

末：权为先锋之职，得胜回来，另加升赏。

生：领命。

末：挽手不口口量（挽弓当挽强？）

生：月（用）箭要用长。

末：射人先射马。

生：擒贼先擒王。

[下]

末：好个擒贼，先擒王人来。

手：有。

末：开道校场。

[吹 介]

[下]

十五出 催 军

[杂手 下]

[急急风，倒脱靴]

付：[笑介]

[下]

十六出 交 战

[四手 上]

[大出 起罢]

生：[上] 小将生来志气高，全凭武艺逞英豪。战马吃尽波浪水，要为我主立功劳。俺，刘高领了帅爷
将令征战水贼。众将。

手：有。

生：人马催动。

生、付：[对战介]

付：[下]

生：前面为何不行？

手：那贼大败。

生：败兵不可再追。人马收回。

[下]

十七出 鸡 包 山

[杂手 上]

付：[上] 众将，前面是什么山？

手：鸡包山。

付：人马扎住鸡包山。

[尖 卍]

[水尾]

[下]

十八 回 营（赏配）

[生、末、手、占]

末：[上] 遣将出兵，未见转回程。

手：报，马头军得胜回营。

末：吩咐更衣相见。

生：[上 吹介]

末：马头军得胜回来，可喜可贺。

生：托赖大人福气。

末：我有一言不好起齿。

生：有何舌言，吩咐。

末：家有小女配为将军百年佳偶。

生：家有前妻，绝不从命。

末：我女愿配二房。

生：不敢高攀。

末：良缘岂有错配，丫环侍奉小姐梳妆交拜。

[吹介]

占：[上 拜堂]

末：真当郎才女貌。

[笑介]

[下]

十九出 挨 磨

[丑、旦、末、夫]

丑：[上] 一不做，二不休，杀人不死反为仇。我乃张氏便是。只因三姑姐在我家中，没有许多闲饭吃。

我与官人设下三条计策。一计：命她投河自溺。二嫁：命她改嫁他人。三米：汲水挨磨。看她愿从那（哪）一条，三姑那（哪）里，走来。

旦：来了，哥嫂太郎（狼）心，逼我俩离分。嫂嫂何事？

丑：非为别事，你哥哥说到，你在我家没有许多闲饭你吃，与你定下三条计策。

旦：哪三条？

丑：一计投河自溺，二计改嫁他人，三计汲水挨磨，看你愿从哪一条。

旦：奴情愿汲水挨磨。

丑：不要攀扯与我。

旦：绝不攀扯与你。

丑：把这颜色脱将下来。

旦：[脱衣]

丑：随我来。[介]待我上起麦子米。

旦：嫂嫂与我起个磨头。

丑：叫你不要攀扯与我？

旦：看在姑嫂分上。

丑：也罢，看在姑嫂分上，与你起个磨头。

旦：嫂嫂反了。

丑：那个反了？

旦：你反了。

丑：是我反了，到还也罢，若是你反了，就要挨打。

旦：哦。

[唱]一条铁石心，磨重难挨。无情哥嫂，心狠毒。

丑：那个狠毒你？

旦：[唱]哎，嫂嫂，你还说你不狠毒与我。我与刘郎一对好夫妻，被你在我哥哥面前，今日一般（搬），明日一唆，般般唆唆拆散我的风流鸾交，又逼我重婚改嫁。

丑：改嫁的好吓。

旦：[唱]又道忠臣不扶二主。

丑：劣女。

旦：烈女岂嫁二夫。想我李氏三娘，嫁又嫁不就，死是死不成，则除非将刀刺下我的头来。李三娘决不效伤风败俗。

丑：[打介]伤风败俗，伤风败俗，打得你三天吃不得冷粥。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

旦：哎，嫂嫂你打我，我是你家何人。

丑：姑姑。

旦：哦。

[唱] 又道堂上姑来厨下嫂，大还是大米，小还小，贱人理义纲常全不晓。我本是李员外亲生一女娃，怎受得无情拷打，怎受得无情拷打。

[丑受打介]

[白] 嫂嫂你出来。

丑：你打，我不出来。

旦：我没有打你。

丑：哎哟，哎哟，你又打我。

旦：鬼打你。

丑：我一双手打你，你有七八双手打我。姑姑你可饥饿？

旦：饥饿了。

丑：我扫些面粉做馍（馍）你吃。

旦：嫂嫂你要来得早。

丑：我来得早，点心点心，饿断你的总筋。

[下]

旦：哎，嫂嫂去了，待我强挨几步。

[唱] 哎，天哪，想我爹娘在世，莫道是挨磨，就是行也行不到此处。高楼大厦哥嫂占，茅簷草舍奴家甘自守。山外一重山，云山叠叠关山哪，纵高万丈也是枉然。遮不住李老婆愁肠苦楚，遮不住李老婆愁肠苦楚。哎哟。

末上：恼恨洪信太不仁，不念桃花一树生，三侄女可在磨房。

旦：三叔来了？

末：你把挨磨之事说来我听。

旦：叔爷容禀。

[唱] 昨夜黄昏一夜换（挨）磨到天明。磨儿挨不动。十月怀胎动。刘郎一去信不通。我泪流洪。无情哥嫂，故把口（我）牢笼用，刘郎一去信未通。

[白] 哎哟。

末：想是要分娩，待我叫窦老太妇前来调理与你，窦老太妇可在家中？

夫：三员外何事。

末：我三侄女在磨房要分娩，请你前去调理。若是生女，但凭与她。若是生男，叫她修下血书，着人送

往邠州。

夫：〔内白〕三员外，没有盘费。

末：到我家去拿。我将冷眼看螃蟹，看你横行到几时。

〔下〕

丑：〔唱〕苦痛难挨，磨坊生下小婴孩。未断儿脐带，叫娘怎布摆。

〔白〕嫂嫂 我生下外甥来了，有剪刀借我一用。

丑：剪刀是没有，磨盘底下有斧头一张。你去砍将下来。

丑：〔唱〕哎，苦吓。血污口难开。咬下脐来，咬脐名儿，是他的终身号，哭破儿声苦自哀。

丑：三姑如可曾分娩。

丑：已分娩。

丑：是男是女？

丑：是男。

丑：抱来我看看。

丑：外面风大。

丑：看我些好扶养。

〔儿笑介〕

丑：哎呀，他也晓得叫我舅母娘，我看他手粗脚长，长大必是个杀人王，待我丢到鱼池内淹死与他，我今朝将他来害死，看他何处把冤伸。

〔下〕

夫：〔上〕受人之托，必当重人之事。

〔儿哭介〕哎呀，这鱼池内是那里一个娃哭，待我拾得起来，还是个男娃娃。三姑可曾分娩。

丑：已分娩。

夫：抱来我看看。

丑：方才嫂嫂抱得去了。

夫：我在鱼池内拾得一个娃子。

丑：抱来我看看，哎，儿吓。

夫：不要啼哭，修下血书 我与你送往邠州去。

丑：〔唱〕哎哟，生儿在磨房，取名咬脐郎，表娘今日苦，留名世不忘。老人家，请受我一礼。

夫：不消。

丑：〔尾声〕一朝咬断儿脐带。哭破儿声苦自哀。娘东儿西两分开。

夫：转至后面姥姥那里？

外：何事？

夫：三姑如生下一个男娃子，叫我二老与她送往邠州去。

外：这是我二老走心未满。待我收拾行囊，一心忙似箭。

夫：两脚走如飞。

外：走如梭。

[下]

二十出 送子

[外、占、夫、净]

占：[上] 门前喜鹊叫，必有喜事到。院子。

净：有。

占：府门侯侯。

[外、夫、上、口]

外：在家千日好。

夫：出外打痺寒。

外：哎，半时难，来此大户人家，待我前去门（问）来。府人有人？

净：哪里来的？

外：此处可有刘志远，你可知道？

净：乃是我老爷的口（府）舍。

外：他也做了官不成？他可在衙内。

净：征边去了。

外：升天去了？

净：征边去了。

外：衙内可有人否？

净：有一夫人。

外：可贤惠？

净：最贤惠的。

外：烦你与我通禀夫人，你道沙陀村突老夫如求见。

净：启禀夫人，沙陀村突老夫如求见。

占：命他二人自进。

外：老人家他做了官？

夫：他做官，我二老有了靠山。

净：命你二老自进。

占：罢了，年大之人带进茜（喜？）神堂。

外：鸡粪堂，岂不臭。

净：迎宾待客名为茜（喜？）神堂，

外：啊，是喜神堂。

[下]

占：老人家到此何事？

夫：送得有公爷家书至此。

占：将书呈上。

夫：书在此。

占：生儿在磨房，取儿咬脐郎，表娘心头苦，留名世不忘。老人家，这个名字不好要更换。

夫：千里不改名，万里不改姓。改了名姓，日后不认得老娘子。

占：改名不改姓，改名刘承佑，日后好登皇榜。到此多少路途？

夫：千百里程途。

占：千里来路远。

夫：此子见二莲。

占：沙陀村还有母？

夫：大人相会在何年？

占：老人家，就在眼前，随我来。

夫：来了，真当贤惠。

[下]

二十一出 下 旨

[生、末]

生：[上] 镇守边疆地，何日还乡井。[吹介]

末：[上] 一封丹书诏，飞下九重霄。圣旨下。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

生：万岁万万岁。

末：今有圣上得龙梦，梦见白兔画眉下凡。命各衙内十五岁的公子，俱要遊山打猎，打得獐鹿兔鹿回来。

另加爵赏，叩头谢恩。

生：有劳大人领旨前来，中途不便留宴。

末：回朝覆命。

[下]

生：还过大人。[吹介] 米人，拔寨回朝。[吹介]

[下]

二十二出 回朝

[生、占、手]

占：[上] 老爷镇边陲，未见转回程。[手人过介]

生：[上] [口手介]

占：老爷得胜回立（过）来，可喜可贺。

生：托夫人的福气，下官去后，沙陀村有何音信至此？

占：老爷去后，沙陀村奕老太如送来公子家书至此。

生：孩儿在那里？

占：演武亭演武。

生：一班传一班，传少爷回府。

净：一班传一班，传少爷回府。

小：[上] 走。

[水底鱼] 母亲这是何人？

占：乃是你爹爹。

小：孩儿一拜 [吹介]

生：一旁坐下，夫人，圣上得一龙梦，梦见画眉白兔下凡，命各衙内十五六岁公子，俱要遊山打猎，打得獐鹿兔鹿回来，另外爵赏。

占：儿可愿去？

小：孩儿愿去，只恐众将不听料理。

生：我这里有大令一枝，不听令者照令施行。

小：领命。

生：遛山打猎要小心。

占：一路不可害良民。

生：若还打得白兔转。

小：打兔回来见双亲。

生：好个打猎回来见双亲。

[下]

二十三出 出 獵

[小、外、丑、旦]

小：[上] 小将生来胆气威，全凭武艺占高魁。爹爹堂上加官爵，百万军中督指挥。小将刘承佑，领了爹爹言命，遛山打猎。小王。

丑：有。

小：人马何齐。

丑：禀将军，要带多少人吗？

小：帐下三军。

丑：老王少陪了。

外：那里去？

丑：将军传下令来，只要三个人，岂不多了我。

外：这狗吃的。两个耳朵一个也不带来。帐下三军乃是军中的号令。

小：[唱] 帐下三军，听咱号令。

丑：将军好英雄。

小：[唱] 英雄似猛虎。

丑：好披挂。

小：[唱] 披挂赛天神。

丑：鼓响了。

小：[唱] 鼓咚咚催军鼓响，急尖尖闯上邮亭。

丑：炮响了。

小：[唱] 活喇喇炮声一响震天境。

[白] 小王。

[唱] 你与我多带弓一把，各带狼牙，各带狼牙，箭儿枝。

[白] 马来。

[唱] 白马儿，雄赳赳头带红缨，猎犬儿走似飞云。獐鹿兔鹿俱不见，乌鸦喜鹊尽瘳（落）声。又只见
天边鸿雁走如云。

[白] 小王。

[唱] 你与我解戎绳放海狸（青）。那海狸（青），一飞飞在天鹅阵。天鹅前面走，海狸（青）随后跟。
这海狸（青）比不得那海狸（青），那海狸（青）眼似铜铃，爪似铜针。头上抓得血淋淋。毛儿扯
得细纷纷。

丑：下来了。

小：[唱] 翻天覆地倒在地埃尘。

丑：[唱] 恭喜（喜）将军，贺喜（喜）将军。

小：[唱] 众三军，休得要贺彩（喝采）声频。

丑：肚中饥饿，再禀将军，人要草吃 马要饭吞。

外：讲到（倒）了。

丑：我到（倒）讲，他顺想。

小：[唱] 每人赏你良（银）三分，大家沽酒消愁闷。

[白] 一霎时，人劳马喘。

[唱] 暂歇邮亭，暂歇邮亭。

[白] 小王，易（场）去沽酒。

丑：得晓。

外：晓得。

丑：晓得□□。

外：将军叫你。

丑：我不晓得是叫我。叫我，你不要打插。啊，此地可有酒沽？

内：没有。

丑：那里有？

内：前面杏花村。

丑：多少路途？

内：五里之遥。

丑：多谢了，我。

内：多谢我？

丑：多谢了，我来问你，启禀将军，此事（地？）没有酒。

小：哪里有？

丑：前面嘎嘎哼。

小：想是杏花村。多少路？

丑：一别掌。

小：想是五里之遥。

丑：不错。

小：马来。

[唱] 借问酒家何处有，牧童遥指杏花村。

丑：到了杏花村。

小：小王前去沽酒。

丑：到知。

外：知到（道）。

丑：知到（道）。你去啊，可有店开的？

内：开店的。

丑：不错是开店的。此地可有酒买？

内：酒得有，你是哪里来的？

丑：我是阴沟里扒出来捉鳖的。

内：想是邠州打猎的。酒是有，只卖人家农田农地，不卖你当兵吃粮。

丑：当兵吃粮的怎样？

内：当军吃粮，头戴翻弦（烦喧）帽，吃酒不把酒钱，还有许多啰啰嗦嗦的。

丑：你卖一点。

内：一点也不卖。

丑：不买不买，少时有店难开。启禀将军，酒得有，只卖人家农田农地，不卖我当兵吃粮的。

小：当兵吃粮的怎样？

丑：他吃了酒不给钱，还有许多啰啰嗦嗦的。将军下个令，我与老王去抢得来。

小：走。

[唱] 哎，小王大胆狗才。不记住在家启程之际，大老爷是何等言语嘱咐与你。只要你登山打猎，谁叫你扰害良民，你若是听咱令，一个个论功升赏。你若是违咱令，军令施行，军令施行。

丑：老王，扯我起来。[吐介] 老王，看我是黄的，还是白的？

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

外：黄白俱有。

丑：吓破了肝。

外：胆。

丑：肝胆相连。

外：你死了过年。

丑：你可听得将军骂你没有？

外：未曾听得。

丑：〔唱〕他骂到，老王大胆狗才。

外：他是骂你。

丑：骂我难道就奉承了你？

〔唱〕不记得，在家中，大老鸦。

外：大老爷。

丑：大老爷何等言词嘱咐你来？

外：你来。

丑：我来，你就不该来。

〔唱〕只叫你遛山打猎。

外：打猎。

丑：〔唱〕谁叫你扰害民粮。

外：良民。

丑：〔唱〕你若是依咱令，一个个论功抓痒。

外：升赏。

丑：〔唱〕你若是违咱令，老王你站过来。

外：做甚么？

丑：屁眼里抽筋。

外：军令施行。

丑：雁来了。

小：驾住风云动，征边立大功，旌旗遮白日，匹马走西东，左手挽枝箭，右手上貂（雕）弓，众军齐喝采（彩），这一箭落长空。

丑：呵呵，断了弓。

外：断了弦。

小：可有余弦？

丑：没有余弓，只有小貂弓一把。

小：速速整马来。

唱：忙吧貂（雕）弓，速整众三军。休得要喝采（彩）声频。远观白兔走如云，一声炮响震天庭。人人努力，个个同心，遊山打猎，见兔放鹰，大家齐唱宜春令。

[下]

二十四出 叹雪

[丑]

丑：[唱]哥哥狼心，剥去衣衫，逼奴改嫁，逼奴改嫁。自叹奴薄命，爹娘丧不幸，瓜园两离分。他去投军。一去邠州，州杳无音和信。哥嫂不认手足亲，刘郎不思结发情，咬脐不念生身本。本待我寻个自尽，我只得自思自想自思忖。待等刘郎火回咬脐儿归，我把受苦的冤情一一如雁落井，怎不叫人泪淋淋。

[汲水介]

[白]来在井栏边，单衣汲井泉。朔风当面刮，这苦对谁言。

[清水令]似这等天日无光，洒梨花瑞雪飘飘逞风威当面刮。哎，天哪，昨日下雪，今朝又下雪。有朝太阳一出，看你雪在那里，日在何方。雪呀，你把苍松压倒，你把苍松压倒，千万叠。哎（哎），这等天朝下雪，惟有富者乐贫者愁，粉粧世界玉均（砌）银屏（瓶）平白里将人家悞（误）了。你看家家户户，家家户户人踪灭。哎，天哪，既起风就不该下雪，下雪就不该起风。看我李氏三娘，头上也是雪，足下又是泥。可怜我带雪拖泥，浑身冷透彻。哎，羞矣，我今在此闲讲，不知紧要。我那狠心哥嫂闻知，见我汲水归迟，不是打就是骂了。老天[叫介]哎，乌鸦，你乃有翅之鸟，何不展翅儿高飞，怎比我李氏三娘，在此雪中无依无靠。你也在此受苦。怎的受苦，何来乌鸦，站立枯枝饿了声啞。单单身上俱是雪。

内：问路。

丑：[唱]又有行人问路程，早汲寒泉归家去也。

[下]

二十五出 井 边 遇

[小、丑、外、旦 同上] 含口花

小、丑、外：[唱] 任猎犬，放海狸（青），远观白兔走如云，勒马紧加鞭莫等它跑远。远观白兔汲井泉，将我白兔米藏掩，将我白兔米藏掩。

小：小王你与我寻箭的寻箭，寻兔的寻兔。

丑：老王，将军传下令来，叫我开店的开店，开舖的开舖。

外：你这狗入的，两个耳朵一个也不带来。叫你寻箭的寻箭，寻兔的寻兔。

丑：大家寻米。

丑、外：[同唱] 公鸡叫，母鸡叫，各人寻到各人要。公鸡啼，母鸡啼，各人寻到各人的。

外丑：寻兔寻不见，寻到一支箭。

丑：将军好眼力，射在婆娘的尿桶里。

外：水桶里。

丑：扯出来尿一标。

外：水一标。

丑：不错，是水一标。箭上一块片，把与将军变一变。

外：念一念。

小：箭乃貂铃（雕翎）箭。

丑：箭。

小：兔乃月中王。

丑：王。

小：咬脐来打猎。

丑：猎。

小：井边遇亲。

丑：娘。

小：没有娘字。

丑：凑个娘字好倒、倒运。

外：押韵。

小：小王，对那妇人讲，将军千辛万苦，万苦千辛，赶一白兔至此，叫她好好放出来便罢，如若不然，将军不与你干休。

丑：[附] 驴子。

外：婆子。

丑：我将军千针万补，万补千针。

外：千辛万苦，万苦千辛。

丑：赶一黑兔至此。

外：白兔。

丑：白的黑的在那里？

外：寻她要。

丑：我不晓得寻她要，好好敢（赶）出来便罢。如若不然将军不与你干抽。

外：干休。

丑：哀告列位长官。

丑：敬到你的，我么大的兔子，只有两碗。

外：她是奉承你我，列位长官。

丑：你就捧得来。

外：讲得来。

丑：[唱]此乃大路旁，一非小溪边，来往人马有万千，小妇人只顾低头汲井泉，那曾见得将军画眉白兔闯将过来。多多拜上你，将军传言再拜众军们，你本是打猎将军，奴本是汲水妇人，若得问来便得问，不得问来且自罢休，休问奴家苦心怀。[哭介]

丑：那婆娘哭得好东皇。

外：好凄凉。

丑：我学个样子你看看，多多，多多，天多。

外：那有许多多。

丑：你道我的多，她还比我多更多，多多，多多，拜上小遭瘟。

外：小将军。

丑：传言再拜，一错人。

外：一个人。

丑：你一站到是一个人，我一跪下不是一错人。

外：总是一个人。

丑：总是一个人，若得问来便得问。不得问来且罢休。休，休。休问她的苦心怀。赤脚婆娘没穿鞋，前面卖枣子，后面打出两个梨巴（？）来。

外：脚踏来。

小：小王。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

丑：有。

小：对那个妇人讲，没有冤情，背水回去。若有冤情，请上邮亭一会。将军与她伸冤。

丑：啊，婆子，我家将军说到，若有冤情背水回去。若无冤情，请至邮亭一会。将军与你伸天。

外：伸冤。

丑：不错是伸冤。

旦：将军受我一礼。

小：哎。

[唱] 举目斜观，看她不是奴婢人。

丑：好大雪。

小：〔唱〕雪飞天，因甚单衣汲井泉。你是谁家女，哪家养？

[唱] 何人打骂受煎熬，莫不是爹娘有损。手足有伤，妇人何不请至邮亭上，讲细说端详，讲细说端详。

旦：〔唱〕蒙君若问此缘情，这苦楚又谁怜念。但愿苍天相保佑，孔雀屏风配良缘。

小：嫁与何人？

旦：〔唱〕嫁与亏心短幸刘志远。

丑：我一耳巴子打得你三天饭吃不嘴。

外：嘴吃不饭。

丑：动不动把我老大爷的名字扯将起来，公牛的屁，公牛的屁，这个事我要禀。

外：不用禀。

丑：将军，那妇人动不动把我大爷的名字扯将出来，公牛的屁。

小：天下同名共姓者广多，下去。妇人你为何言犬之故道犬之短？

旦：〔唱〕哎，将军非是小如言犬之故，道犬之短。他去邠州一十六载，杳无音信转回来，将军，无的不是亏心短幸，刘志远。

小：爹娘？

旦：〔唱〕爹娘不幸丧黄泉。哥嫂逼奴再重婚。日间汲水愁无奈，晚来挨磨，晚来挨磨，到天明。

小：可生儿子？

旦：〔唱〕产生一子在磨房。

小：那里去了？

旦：〔唱〕送往邠州，远离家乡。

小：可有音信？

旦：〔唱〕一去邠州十六载，杳无音信转回来。

小：叫何名字？

丑：[唱] 哎，将军。不问孩儿名字则可？

小：若问？

丑：[唱] 若问孩儿名字真当好苦。磨房产下孩儿，没有剪子。只得咬下脐来，咬脐名儿是他的终身号。这场冤苦，有谁怜念。

小：[唱] 听她，言来好伤怀。不由人，珠泪满腮。问她孩儿今何在，说起来，已在我邠州地界。

小：小王，问那妇人可识字迹？

丑：啊，我将军问你可识字迹？

丑：却知三。

丑：不终（中），不终（中），只认得两个字。禀将军，那妇人只认得两个。

小：想是一二改知。

[唱] 哎，妇人。先前道你不识字迹，我这儿方便难行为。如今既识字迹，你还烦恼怎的，忧虑何来。

妇人何不在此修下书信一封来。我与你将书带，又与你查夫问子来。查得夫来夫相见，问得子来子团圆，那时节管叫你水不泼，磨不挨。泼水挨磨两丢开，断然不受灾。既受兄嫂害，休流泪，免伤怀，免伤怀。

[白] 小王，拿锁匙开皮箱，拿文房四宝与妇人休书。

丑：这就送命。我不知道文房四宝是什么东西，待我来试试老王看。老王呀，老王呀，你吃粮胡须吃白了，你还不晓得文房四宝。是什么东西？

外：纸、笔、墨、砚。

丑：我晓得了。

外：你这个岁老王。

丑：这个东西，好大个名堂，没有水。

外：抓得雪。

丑：好炮人。

外：冰人。

丑：不得化。

外：放个屁。

丑：你来。

外：呵口气。

丑：呵口气就呵口气，什么放个屁？我来磨墨。

外：把个屁股颠什么？

丑：屎股不颠墨不来。

外：这是文墨。

丑：妇人杀猪。

外：修书。

丑：修得到就是修书，修不到不就是杀猪。

外：总是修书。

丑：总是修书。

外：是的。

旦：别太容易，见大难。

丑：难。

旦：望断大河数雁寒。

丑：寒。

外：不要打岔。

丑：帮腔。

旦：早来三天重相公，迟来半月鬼门关。

丑：噫，噫，老王那妇人修书，修到我的熟路去了。

外：怎么是你的熟路？

丑：咳，鬼门关我到过三回。

外：你是怎么到过三回？

丑：我那年和大老爷包烟。

外：征边。

丑：不错是征边。

外：那是雁门关。

丑：鬼门关在那里？

外：在阴司里。

丑：你到过？

外：你到过？

旦：李三娘稽首百拜。

丑：写起来了？禀将军，妇人书信在此。

小：小王，将书信打往头阵。

丑：呵，将书信打往老王头上。

外：啊，书信打往头阵。

小：小王，我这里有伍两银子，把与妇人，叫她晴天自己担水，下雨下雪雇人担水。

丑：婆子，我将军把五两银子与你，叫你天晴雇人担水，下雨下雪自己担水。

外：讲倒了。

丑：我是倒讲，她就顺想。拿得去。

外：男女手授不清。

丑：放在脚上。

外：手脚想全（相同）。

丑：那就放在地下。

丑：谢将军。

小：一朝风云至。

丑：梅花插几枝。

小：蓬头人见面。

丑：将军寄书莫太迟。

小：那我知到，小王与那妇人送水。

丑：老王，将军叫你送水。

外：叫你送水。

丑：论腰牌。

外：前日在我跟前，今日该你。

丑：如今不论腰牌，要起个地规。一字起，十字止，九字带马，十字送水，数得哪个，就是哪个。

外：数哪个起？

丑：数你起。

外：一、二、三、四、五、六、七、八、九、十。

丑：站过来，动不动你把个苦（喜）神方，一占倒，数我起。

外：讲定了？

丑：讲定了。

外：一、二、两、三、四、五、六、七、八、九、十。

丑：这也是奇怪，数他起该我去。数我起，也是该我去。等我来品品看。水桶哥哥，我把你当个人，一、二、两，你这狗入的，打我的夹帐，有二就不要两。有两就不要二。从好过来，数我起。

外：数你起，一、二，不要两，清楚明白？

丑：清楚明白。

外：三、四、五、六、七、八、九、十，口（如）今该你去罢。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

- 丑：水桶哥，我还是把你当个人，数我起，一、二。
- 外：□不要两？
- 丑：嗯，（不）要两、三、四、五、六、七、八、九、十。
- 外：如今总算是该□（你）去吧。
- 丑：数得那个就是那个，我总不当再子，你帮我一口（下）。
- 外：我来帮你一下，那里去？
- 丑：将军把五两银子买担水去邠州磨墨。
- 外：邠州没有水磨墨，叫你和那妇人送水。
- 丑：是这等？□（老）王，帮我换下肩。老王那厢人来了。
- 外：小王做什么？
- 丑：唐□（老）挑担，喉下转肩，不知往那里走。
- 外：套她的脚迹。
- 丑：□（她）的脚小，我的脚大。
- 外：只叫你照，那叫你套。
- 丑：那还差不多。送水的来了。
- 内：送水的孩子，少时来吃面食糍糍（馍馍）。
- 丑：老王，我有面食糍糍（馍馍）吃。
- 外：带我去吃些。
- 丑：你好想，叫你担水，就是一、二、两。如今有面食馍馍带你去吃，把场屎你吃吃。啊，吃面食馍馍的来了。
- 内：[唱]三姐姐，懒婆娘，这儿口水不汲，磨不挨，开栏杆上惹得个翻头帽子米。那有许多闲话讲，家下人与我来打。
- 丑：哎啫啫，我的帽子呢？
- 外：在手中。
- 丑：带起帽子就是老王的老子。
- 外：儿子。
- 丑：我好见。
- 外：见什么？
- 丑：见一个懒婆娘，眼大眉毛粗，脚有这么长。
- 外：那有许长？
- 丑：看后面。

[唱] 手执无情棍，站立门槛上，口口声声三姑姐，懒婆娘。这几口，水不汲，磨不挨，井栏杆上惹得个翻头帽子来，哪有许多闲话讲。赛过当年霸霸王。

外：楚霸王。

丑：霸王是楚霸王的家公。

外：小王，问个地名回去。

丑：老王，你去。

外：是叫。

丑：我被她打，怕了。

外：我教导你，你把这屎股向前，他若赶来了，你就好跑。

丑：这个主意是好的。啊，此地什么地名？

内：沙陀村小地名。

丑：禀将军，沙陀村小地名。

小：马来。

[唱] 勒马扬鞭走如云。

丑：哎，将军你看天上风狂，雪又大，地上泥湿路又滑。将军马儿奔得急，不顾马下众三军。

小：〔唱〕哎，小王。非是将军马儿奔得急，不顾马下众三军。看那妇人坐在井栏杆上，手提羊毫欲写不写，两泪汪汪。她说到，早来三天重相公，迟来半月鬼门关。将军一闻此言，恨不得插翅双飞，飞到邠州去，查问姓刘人，是军是民，早早打发，他还乡井。邠州若无姓刘人，要与节妇把冤伸。

[白] 那妇人好象我亲娘。

丑：你娘在邠州。

小：〔唱〕既然不是我亲娘，缘何一家大小同名姓。

[白] 效不得儿派古人。

丑：那儿派？

小：〔唱〕效不得丁兰刻木，王祥卧冰，孟宗哭竹，董永卖身。那些古人都难效。待效取赵氏孤儿，把冤伸。

[下]

二十六出 回书 [生、小、丑、占、外]

生：〔上、引〕盼望旌旗，不见我儿归。

手：报！

生：报何来？

手：小将军打猎回来。

生：吩咐更衣相见。

手：吩咐更衣相见。

小：井边偶迁（遇？）一如人，父同名姓子同庚。本待将他来相认，怎奈堂上有萱亲，爹爹万福。

生：罢了，一旁坐下。

小：告坐。

生：我儿把打猎之事一一讲来。

小：爹爹容禀。

[唱] 上告父尊。

丑：报！

生：报何来？

丑：小将军打猎回来。

外：多久报了，你在那（哪？）里来？

丑：我在店里吃酒来。

生：我儿讲来。

小：[唱] 鹰打兔兒没处寻，见一苍头老妇，驾雾腾云去到沙村。井边相会一如人，蓬头赤足把容颜损，
儿问原因。李家员外是她的爹名姓，曾配大君。

生：嫁与何人？

小：[唱] 嫁与亏心短卒刘。

生：我儿为何欲言不言？

小：上有爹爹虎名在此，孩儿不敢冒犯。

生：天下同名共姓者广多，只管讲来。

小：告过了。

[唱] 讲起那人，与爹爹同名姓。瓜园分别去投军。哥嫂逼她在成婚，身怀有孕难从命，守节坚贞。好
似荷花出水生。

生：可有孩儿？

小：[唱] 辛苜（喜）刘家有后，生下孩儿名叫咬脐。

生：孩儿哪里去了。

小：[唱] 哥嫂二次用谋计，将儿丢至在鱼池内，三叔公救起，多蒙窦老夫如，千山万水送至在邠州地。

生：[唱] 此事蹊跷，她是何人，儿是谁。天下同名共姓者广多，三思而行，再思可矣。

小：[唱] 心中展转暗猜疑，其中必有详和细，两泪双垂。儿在井边带得有书回，望望细观详和细。

生：我儿何曾过午？

小：未曾。

生：后堂茶饭。

小：前堂别爹爹。

生：后堂看母亲。

小：爹爹看书看明白了。

生：原来是三娘有书前来，待我拆开观看，哎，妻呀。

[唱] 见鸾笺，一字字写得我的心头愿。都只为关山阻隔，音信难通。非我去不回，非我去不回，刘志远，不做亏心汉，不做亏心汉。

小：爹爹井边相会是谁？

生：[唱] 我的儿，苦苦问她来则甚？

小：到底是谁？

生：[唱] 哎：承佑我儿，不问井边事情则可？

小：讲起。

生：讲起井边真当好苦。儿在雪地怎见母，对面不相认，对面不相认了我的儿，井边相会是儿的亲身生母。

小：邠州堂上。

生：[唱] 邠州堂上，晚邠州堂上，娘亲。

小：[唱] 听爹爹言来好伤心怀，不由人珠泪满腮，一闻爹爹把话提，孩儿在东母在西，早知是我亲生母，一马双跨找我娘归，无的不是痛，痛煞我也。

占：离开孔雀屏风，来到画隔台前，老爹万福。

生：罢了，孩儿打猎回来，闷跌在地。

占：儿呀，起来。

小：你不是我的亲娘，我要我的亲娘。

占：老爷，此话从何讲起？

生：他是稚子志气，不要听他的话，好好搀扶起来。

占：儿呀，不是为娘所生，也是为娘所养，乖巧儿起来。

生：还不知罪？

小：孩儿知罪。

[唱] 听说罢肝肠裂碎。破蓑衣两泪垂，兒在井边相会，说原因，哪知是我亲身母。我娘亲受孤寒。

生：什么打扮？

小：孩兒要茶吃。

生：夫人拿来。

占：待我拿来。

小：[唱] 哎，爹爹孩兒哪早是要茶吃？既有晚娘在此，你还问我亲娘什么打扮。我那亲娘若有晚娘这样打扮那就好了。爹爹，只见她身穿着破蓑衣褴褛衣裳。

生：头戴什么？

小：[唱] 哎，爹爹，你乃为官之人，心中岂不明白。身上既无穿的，头上那有戴戴的了。爹爹，只见她头挽着口（发？）蓬松，剪发齐眉，你剪发齐眉。孩儿一见她如痴如醉，不由人寸寸肝肠裂碎。哎，爹呀，你在此享荣华受富贵，不记得李家庄上为门婿。

生：为门婿怎样？

小：[唱] 为门婿做夫妻。

[白] 爹爹，大舅叫什么名字？

生：叫李洪信。

小：[唱] 恨只恨，李洪信太不仁，把一个亲身妹子为奴婢。

生：为奴婢怎样？

小：[唱] 奴婢受孤寒。

[白] 爹爹孩兒说起断头话来了。

生：休出此言。

小：[唱] 若接亲娘来到此，孩兒万事俱不提。不接亲娘来到此，孩兒撞死階前地。

生：旁人道兒不肖。

小：[唱] 旁人道兒不肖，道爹爹忘恩负义 抛妻不理。

生：非是我忘恩负义抛妻不理，都只为关山阻隔，误了佳期，就误佳期。

占：〔唱〕 老爷休流泪，我兒免伤怀。既有亲娘在，何不接她到此来，拜她为姐 我为妹。

小：[唱] 谢娘亲大发慈悲。谢爹爹万般周济。

占：只有亲的哪有晚的？

小：[唱] 说出哪里话来了？娘，孩儿三朝血块到此，不是母亲所养，哪有今日了。娘说什么她是亲的 你是晚的，亲的晚的，为兒者奉甘肠一般孝顺。

生：[唱] 待来朝选日子，差归期。

小：[唱] 哎，爹爹事到如今，你还择什么日子。你好差差归期了。爹爹，也免得我娘亲命日塞（前）夕。

望爹爹及早登程，莫太迟。就我娘脱离了虎口之地，也免得你孩儿早思暮想，思意念急了。爹爹，你孩儿恨不得插翅双飞。

生：飞到哪里？

小：〔唱〕沙陀村地，沙陀村地。

〔哭介〕

同白：哎，/ 姐姐，姐。

 / 三娘，我妻。哎，妻，哟。

 / 母亲，我娘。亲娘。

〔下〕

二十七出 磨房会 [生、旦]

旦：〔上唱〕思量命蹇，遭逢兄嫂害，不幸爹娘早丧，偶遇狼毒哥嫂，逼奴改嫁是奴不从，他就设下三条毒计。一计逼奴投河自溺，二计逼奴改嫁他人，三条计策逼奴，上剪青丝发，下脱绣罗裙，日间汲水晚来挨磨，我只得伴着磨儿缓缓挨，挨磨等夫来。我看磨房儿桩物件，好比奴家几个人来。磨儿好比我那爹娘，筛罗好比狼心哥嫂，这麦子好比我与刘郎。先被磨儿磨下来，又被筛箩打碎两开，打得奴夫不能见妻子不能见母，重叠叠，碎纷纷，却被他们打下来。井边汲水与将军，我想将军年纪虽小，到有一点仁德之心，他与我方便把书带，又与我查夫问了来。查得夫来夫相见，问得子来母子团圆。那时节管叫我水不汲磨不挨，汲水挨磨两丢开。断然不受灾，岂受兄嫂害。

〔白〕挨磨辛苦 打睡一时。

生：〔上〕皂鞋纷纷点翠苔，犹如仙子下瑶街。前门桃柳依然在，尽是刘郎亲手栽。来此已是磨房，只见门上加锁，锁上加封，想是洪信闻知俺刘高回来，将妹子接回家去，也未可知。正是他既回心，我便罢休。免得郎舅结冤仇，不免转至马王庙中，明日再做道理。

旦：哎，苦哇。

生：未曾行走三五步，忽听磨房叫苦声。想是三娘还在内面，待我闪至一旁，听她讲些什么。正是 若知他人心腹事，且听她的口头词。

旦：天怎的不明，月光缘何不下山，笼中鸡，怎得不报晓。

〔唱〕恨金鸡不报晓，恨金鸡不报晓。

〔白〕此处又无州城府县，那有更鼓之声，当初爹爹说到，开院（元）寺中来往官员到此也未何（可？）知。

[唱] 正是欢悦嫌夜短，寂寞恨夜更长。听焦（讷）楼花鼓频频，天边皓月照人行。哎，天月光，你的光明在上照着下土。你若照着富豪之家，大唱妇随，有个好处。你若照着苦命三娘，哎，丹光缘何不去照画堂。明晓晓羞踏踏，偏偏照在奴身上。

[介]

又听得强基外路兒上，将象有个人行路。哎 行路之人，你若是男子汉则可，若是知道之家 这等夜尽更深，一个人在此行米走去，走去行米，看将起，也与我李氏三娘差不多，恨刘郎一去不回来。哎，刘志远天煞的，当初爹爹说到，马王庙中散愿回来，见你美貌堂堂，三叔将奴配与你，只望你有个好处荣耀奴家。又谁知一去邠州不回来。早知今日，悔不当初。悔当初倒不如情断恩，恩断情，恩情两下分干净。

生：断情不段情，三娘快开门。

旦：哥嫂，我在此挨磨。

生：不是哥嫂，是你故友回来。

旦：外面人差矣，男子汉有故友。想我知道之家，是哪里来的故友。

生：三娘不必暗猜疑，十六年前刘高回。

旦：既是刘高回来，你就把往日之事，细说一番。

生：三娘听道。

[唱] 抛离数载景致依然在，门前桃柳依然在，尽是刘高亲手栽。磨房转过马房来，只见门楼倒坏，两廊下瓦碎尘埃。想是刘高我出后，洪信好酒无才，因此上无人来摆布。

旦：眼前之事，谁个不知，那个不晓？你我哪里分别呵？

生：[唱] 哎，三娘妻。不讲起分别则可。

旦：讲起。

生：[唱] 讲起分别真当好苦，恼恨大舅狼心，舅母无情，将酒劝得沉沉而醉，命我看守百亩瓜园，只望我遭瓜精之口。谁知孽畜反遭我手，因祸得富，因祸得贵，三娘妻，你我分别在瓜园。

旦：日前。

生：[唱] 日前见你有书到。

旦：上写什么？

生：[唱] 上写着 儿般受苦儿般灾，还有许多恩和爱。

旦：[唱] 既知到（道？），儿般受苦儿般灾，缘何一去不回来？我见你男子汉，心肠特歹，心肠特歹。

生：[唱] 非是我男子汉，心肠特歹，心肠特歹。都只为官司有差，镇守边境地。要来，我也是不得来。

[白] 三岳丈何在？

旦：还在。

生：好哇。

[唱] 幸喜得恩人还在，刘高回来。若还不在此，我今转邠州地点动人和马。要把李家庄上平阳踹。

旦：[唱] 哎，苦哇。

生：[唱] 哎，三娘妻。先前没有刘高回来，烦恼懊恼理所当然。如今既有刘高回来，你还烦恼怎的，忧虑何来。三娘妻，满腹忧愁且放开。欢欢喜喜开门相见，这般情忘两丢开。

[白] 讲得明白，三娘开门。

旦：锁匙哥嫂拿去了。

生：水饭怎样得进？

旦：记得就送一点。

生：不记得。

旦：也不知饿了多少。

生：这等苦煞三娘，待我转至马王庙中，明日再作道理。

旦：行路之人，还不快走？

生：怎么快走？

旦：既是刘郎回来，往口英雄那里去了？

生：不讲起往口英雄则可，一讲起往口英雄，我就打下门来。

旦：且慢！有官无官？

生：有官怎样，无官如何？

旦：有官打下门来。无官，还不知道我哥嫂的厉害。

生：不讲起你哥嫂则可，讲起你哥嫂恼得我怒气冲牛斗，那怕铜墙铁壁门。

[打门介]

[白] 三娘在那里？

旦：刘郎在那里？

(同白) 哎，夫/妻呀。

(生：[唱] 多年不见，常怀挂欠(牵)，我谢苍天。今晚夫妻重相会，花谢重开月再圆。

[尾声] 黄河尚有澄清日，岂可人无得运时。悄悄莫与外人知。

旦：刘郎不却老了？

生：三娘你的容颜变了。

旦：红粉佳人白了头。

[哭介]

二十八出 算 账 [净、旦、生]

净：〔上唱〕黄昏夜，黄昏夜。三妹子房里人说话。捉也不好捉，拿也不好拿，随她便罢，随她便罢。

〔白〕三妹子，日色多高。还不起来担水？

旦：你家老婆怎的不担水？

净：挨磨。

旦：你的老婆怎的不挨磨？

净：噫，只怕是城隍庙里鼓，三天不打发痒、招打、眼、打出一条牛来了，刘姐夫，恭喜你。

生：喜从何来？

净：恭喜你做了官。

生：没有做官。

净：只怕做了点把（吧）。

生：官只有大小，没有点把（吧）。

净：你当真没有做官？待我问过三妹子。三妹子恭喜（喜）你。

旦：喜从何来？

净：刘姐夫做了官，恭喜你做了夫人。

旦：哪个讲的？

净：刘姐夫讲的。

旦：待我对来。

净：慢些，你哥哥的话对不得，一对就掉了。刘姐夫你当真没有做官？

生：没有做官。

净：没有做官的话，我只怕要与你算账。

生：自己的郎舅有什么账算？

净：没有账算？三妹子出了嫁 就是你刘家的人，你住邠州十六年，三妹子在我家吃了十六年闲饭，一年只算一分银子，十六年只算你十六分银子，拿银子来。

生：我也有账算，我住邠州十六年，三妹子在你家，日间汲水 晚来挨磨，白日汲水算你三分银子，晚来挨磨也只算你三分银子，那银子找我。

净：这个账算不得，我还有账算，你还骑得我一匹马去了。

生：马还在。

净：掉了一根马毛算一分银子。

生：百亩瓜园分在三妹子名下，已在你家一十六年，一粒瓜子只算一文钱。

净：我把马毛一扯两断，一根做两根，你要找我。

生：我把瓜子剖开一枚有三枚，你拿银子找我。

净：又要找你？这个帐我不算，我去告你。

生：哪里去告？

净：县里去告。

生：管我不着。

净：府里去告。

生：管我不着。

净：老爹前面去告。

生：一法管我不着。开元寺中 来了一员九州案（按？）抚上（使？），他管得我着。

净：也有个九个头的老爷管得着你。告状，告状。

丑：哥哥那（哪？）里去？

净：不告，出门就撞到汕头妇人。

丑：自己的妹子无妨，哥哥与我搭告一状。

净：告他什么？

丑：告他抛妻不顾。

净：这句话好不通。

丑：你与我告状，我把一包冷饭，四个团草鞋谢谢你。

净：一包冷饭四个团草鞋，把哥子当作一条牛，你还是牛的妹子。告状，告状。

丑：刘郎，我哥哥告你去了。

生：开院（元）寺中就是卑人。

丑：还要看先人分上。

生：黄河尚有澄清日。

丑：岂可人无得运时。

[下]

二十九出 告 状 团 员（圆） [生、净、末、丑、小、占、手]

净：听说新官到，忙把状来告。若是告得准，红口当头照。若是告不准，老鼠爬进灶，烧得有皮又无毛。

内：乌鸦当头叫，不是打就是吊。

中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究（2）

净：乌鸦当头叫，回去不告，回去不告。

内：洪信告状打回头，慢道别人笑，就是自己的妹子也是笑的。

净：告状打回头，慢道别人笑，就是自己的妹子也要笑的。不错，打死也要告他一状，告状，告状，叫见老爷。

手：我不是老爷。

净：你是何人？

手：我是皂隶班。

净：你在灶里，难怪你烧红了头。

手：站班名为皂隶班。

净：老爷在哪里？

手：在后堂。

净：这样时候还在床上，你去叫他出来，三钱（千）银子打官房，不打除账。

手：老爷升堂。

生：告状人，面朝外跪。

净：老爷见不得我？

手：你见不得老爷。

生：状纸上米。

净：一家人吃斋口素。

生：诉米。

净：李家庄上一条龙。

生：龙字不好，打。

净：不告，开口就打。

手：打官房就要打。

净：打官房就要打？

手：打得多 赢得多。

净：就打。

手：一，二，三，四，五。

生：诉米。

净：爹爹名李太公，生个女儿无嫁处，嫁个老刘真好穷。

生：穷字不好，打穷字。

手：打。

净：不告，不告，又要打。

手：打一千赢上天。

净：又要打，打这边。

手：六，七，八，九，十。

生：诉来。

净：昨日三更转回来，打破了舅母的秋江送。

生：送什么？

净：送别。

生：将他吊在四廊。

手：吊起来。

净：吊起来做什么？

手：老爷见你告状有功，升你个吊官，吊起你审他。

净：升我什么吊官？

末：[上]黄河尚有澄清日，岂可人无得运时。

净：三叔你来了。

末：洪信为何吊在此间？

净：我来告刘姐夫的状，这个老爷见我告状有功，升我一个吊官。少时将你吊在那一边，一对好猷世宝。

末：你晓得这个老爷是哪一个？

净：是个九个头的老爷。

末：就是刘姐夫。

净：就是刘姐夫？三叔只怕要庄村。

末：庄村以久。

净：三叔与我讲个人情分上。

末：只怕忘怀了。

净：我把个暗号与你。

末：什么暗号？

净：三字直写是什么字？

末：川字。

净：叔子旁边加木字？

末：乃是椒字。

净：我在外面叫卖川椒，你就记得。

末：看你的造化如何？

净：造化是好的。

末：与我通禀老爷，你道三岳丈已到。

手：禀老爷，三岳丈已到。

生：鼓乐相迎。

[吹介]

末：恭喜贤婿荣耀回来，可喜可贺。

生：托赖三岳丈福庇。

净：卖川椒。

末：为何将洪信吊在西廊？

生：他不念兄妹之情。

末：还要看在先人分上。

生：来，将舅爷放下来。

手：原来是舅爷，放下来。

净：刘姐夫你好不志城（诚），你做了官，又讲什么没有做官，把我一吊起来好看。

生：请合家出堂。

[出堂 笑介]

小：母亲这是何人？

旦：乃是舅爷。

小：看刀来。

[吹介]

净：三叔救命，我要头。

末：头不在颈上？三叔只怕是四将军下了凡。

末：乃是你外甥。

净：就是我家老婆丢在鱼池的咬脐郎？待我装作舅爹的架子摆他一摆，外甥光溜溜持刀杀娘舅。

小：你不仁来，我不义。

净：放你娘的大臭屁。

末：洪信回去整酒赔礼。

净：待我来算算客看，刘姐夫一个，三妹子一个，锁匙夫人。

末：岳氏夫人。

净：锁氏岳氏不是一样？你老人家做陪客，有一个人我不接。

末：哪个不接。

净：那个小杂种。

末：告回。

生：送过。

[吹介]

([白]) 且苗(喜?)一家荣耀，办灶清香叩谢上苍。

[吹介]

(终)

公元一九七九年八月 殷武焕 刻印

一出 登厂 正堂

事可 平素志气咄咄竟不負孝堂分里少年最效公道时儿时
 腹下做金龟男兒去去安天下必担千軍蓋世志志家法
 徐州沛县沙堤村人民姓刘名高字志也不孝父母只教流落
 以湖这也下常烟表今日天气晴和不免教至酒樓一行一
 二三里烟村四五家樓台六七座八九十枝花来此也是
 酒家那里 早吉 来多有弟种酸种手酸手玩来是个叫鴉公
 太公且不错是个德太公相公清进相公教是来玩酒去后發

公元九七九年八月 殷武煥刻印

在魚池的交際郎待我裝做舅爺的架子擺他一個擺外甥光溜
 持刀弄嫩舅小你不仁來我不仁放你娘的大臭屁未洪
 仗回去整酒賠禮待我來算客看劉姐夫一個三妹子
 一個鎖匙夫人未岳氏夫人鎖匙岳氏不是一樣你老人家做
 陪客有一個我不接未哪個不接那個小朵稞未苦
 回送送過你且送一家榮耀办姓清香叩謝上蒼

水(終)

Ⅲ. 後編、域外編

近世日本における唐音唱詩の興隆と衰退

中国芸能の域外伝播の一例として

加藤 徹

斯文的なものと方言的なもの

かつて東洋の漢字文化圏では、「斯文」と「方言」という明確な対概念があった。

斯文すなわち「この文」とは、『論語』子罕篇に由来する言葉である。「文」は狭義では漢文で書かれた古典文献、あるいは漢文という書記言語そのものを指す。広義では儒教的な文物制度や、学問や道徳を含む文化全般を指す。

「漢文」という言語学的概念に、儒教的な価値観のニュアンスを加えたものが「斯文」という呼称である。

漢文の「方言」の意味は現代よりも広がった。同一の民族語の内部の方言だけでなく、現代人が「外国語」と考えるものも「方言」に含まれた。

斯文ないし漢文が、通時的・通域的に普遍的な価値観をもつ書記言語であるのに対し、方言は、ある時代のある民族集団（エスニック・グループ）のローカルな音声言語を指すことが多かった。

江戸時代の儒者・木下順庵（1621-1699）は、来日した朝鮮通信使との漢詩の応酬の中で、次のような詩句を詠んだ。^[21]

相逢何恨方言異、 相逢いて何ぞ恨みん 方言の異なるを
四海斯文自一家。 四海の斯文は自ずから一家なり

日本の儒者は日本語、朝鮮の儒者は朝鮮語、と、それぞれの「方言」は違う。会見しても互いの音声言語では会話できない。しかし、残念に思う必要はない。中国本土も含め、全世界の「斯文」はみな同じで家族同様なことから——という意味である。

現に、木下順庵は、朝鮮の知識人を相手に、漢文の筆談や漢詩の応酬という「斯文」的なもので意思疎通ができた。

たしかに「斯文」的なものは、普遍的である。八世紀の李白や杜甫も、十七世紀の木下順庵も、そして二十一世紀のわれわれも、漢詩を作る場合は、「格律」すなわち平仄や脚韻などの配列規則を守らねばならない。時代や国籍、母語の種類を問わず、漢詩を作るためのルールは決まっている。

現代の北京語の漢字音も、日本語の漢字音も、漢詩の「平仄」「詩韻」などとはかけ離れてしまっている。北京語を母語とする中国人も、漢詩を作るためには、日本人と同様に、平仄などを学び直さねばならない。自然言語として身につけられる「方言」と違い、「斯文」は後天的な学習を積み重ね習得できない。

漢詩の読みかたにおける二つの引力

かつての東アジアでは、「斯文」的な文芸・芸能は高尚だが、「方言」的なものは通俗的で品格が劣る、と見なされる傾向があった。

京劇でも、「斯文」的な発想と通底する「中州韻」に基づく韻白は高尚だが、「方言」そのものである京白や方言白は下品だとされた。実際、京劇では「帝王宰相、才子佳人」を演ずる老生や青衣は韻白を使い、庶民を演ずる丑や花旦は土着の言葉を使う。

器楽でも、「斯文」的な楽器である古琴（七弦琴）は漢詩を唱うのにあっていたが、「方言」的な楽器である胡琴（現在の二胡や京胡など）は、各地の方言の声の高さにあわせて、楽器の音高も材質もまちまちであった。

現代の中国音楽の演奏家も、例えば千年前の漢詩の楽曲を、五百年前の骨董品の古琴で弾くことは、全く問題がない。斯文的なものは、通時的・通域的普遍性をもつように作られているからである。

しかし、現代の京胡（甲高い北方の方言にあわせた高音の胡琴）で、現代の粵劇（広東オペラ。京劇よりも低音）を弾くことは、同時代の楽器と音楽であるにもかかわらず、原理的に不可能である。

古琴系は「斯文」的だが、京胡系は「方言」的だ。古琴という楽器は、日本や朝鮮など外国の「斯文」文化圏にも広まったが、京胡は、中国国内でさえ北方的なエスニシティが強すぎるため、南方系の芸能ではあまり使われない。

日本では、漢詩と和歌を総称して「詩歌」と呼んだ。「斯文」的な漢詩が上で、日本一国の「方言」的な和歌は下であった。

斯文的なものと言方的なもの、という二つの引力は、かつての世界にはどこでも見られた。昔のヨーロッパでも、ラテン語文化的なものと現地民族語的なものの対立があった。イスラム圏でも、南アジア文明圏でも、グローバルとローカルの二つの引力のせめぎあいという文化的現象が見られた。

ただ東アジアの場合、「斯文」的なものの中心である漢文が純粋な音声言語ではなかったこと、漢字は表音文字ではなく表音表意文字ではなかった点が特異で、そのことが東アジアの芸能全般に決定的な影響を与えていた。

漢字文化圏では、盲人や文盲（非識字者）の漢詩人は、原理的に存在できない。古代ギリシャのホメロスや日本の蝉丸は盲人だったと伝えられるが、盲目の李白や杜甫は考えにくい。

そんな中国でも、「方言的なもの」の世界では、例えば胡琴を演奏する盲目の楽師などが活躍できた。

東アジアにおける「斯文的なもの」と「方言的なもの」の二つの引力のありかたは、世界の他の地

域にくらべても特異である。その特異性は、芸能の域外伝播についても、大きく影響している。

漢詩を訓読で読む理由

筆者は、中国芸能の域外伝播について研究している。今回はその一例として、漢詩の読みかたを取り上げる。

漢詩は、作り方は「斯文的」だが、読まれ方は「方言的」である、という二面性をもつ。

例えば、日本人は漢詩を訓読で読む。朗読だけでなく、詩吟のときも訓読である。字音直読で漢詩を読むことはない。私たちはそれに慣れているため何とも思わないが、外国人、特に中国人はこれを奇妙に感ずるようだ。

例えば、中国人研究者である張競・明治大学教授は言う。

「日本の漢詩文の消化の例として訓読があります。来日したころあれには驚きました。漢詩は原文で読むものと思っていましたが、日本の訓読に通底する独特のリズムに不思議な感動を覚えました」^[註2]

張教授の疑問を筆者なりに敷衍すると、次のようになる。

日本人は、漢詩を作るときは「斯文」的なルールにしたがう。日本漢字音に平仄の区別はない。しかし漢詩を作る日本人は、懸命に平仄字典を引き、この漢字は平字、この漢字は仄字、と暗記する。漢詩の脚韻も、日本漢字音ではなく、伝統的な詩韻の規則を守る。日本人が漢詩を書くとき、日本語の慣用表現に引きずられた「和習」というミスを犯すこともある。なるべく和習をなくし、文法的・語法的に正しい漢詩を書くため、昔の日本人は心血を注いだのである。

その同じ日本人が、いざ漢詩を読むときは、一転して「和習」全開の状態になる。漢詩を中国語で読むのでも、日本漢字音で字音直読するのでもなく、「漢文訓読」という純然たる日本語で読みくです。当然、中国語音で漢詩を読むときはリズムが変わるし、漢詩の脚韻の妙味も訓読では味わえない。

日本人は、漢詩を作るときは「斯文」的なのに、音読するときは徹底して「方言」的になる。そのギャップの大きさに、張競教授を含め中国人は戸惑うのである。

日本人は漢訳仏典(いわゆる「お経」)は字音直読する。しかし漢詩は、音韻の美を味わうための「詩吟」においてさえ、訓読で行う。考えてみれば不思議である。

この理由の分析について、筆者の見解は後述する。

日本における漢詩字音直読

張競教授は「漢詩は原文で読むものと思っていましたが」云々と述べられたが、日本人が漢詩の原文を字音直読することも、まれにあった。

例えば、『和漢朗詠集』巻下「祝」に収録されている唐の謝偃^{しやえん}(?～643)の漢詩の句

「嘉辰令月歛無極、万歳千秋楽未央」

は、雅楽の朗詠では、訓読ではなく、漢音直読で、

「か しん れい ぐゑつ くわん ぶ きよく、ばん ぜい せん しう らく び やう」(以上、旧かな表記)

と歌う習わしとなっている。ただ、例外であるこの「嘉辰」さえ、勸学院の学生は二度の漢音直読のあと、三度目は漢文訓読で詠じたという^[243]。

この詩句を漢文訓読で読み下すと「嘉辰令月、^{かん}歛、極まり無し。万歳千秋、楽しみは未だ^つ央きず」となる。

もう一つの例外は、江戸時代中期からの「近世唐話学」の興隆と、それに付随する漢詩の「唐音直読」の流行である。

江戸時代の日本人は、漢詩の詩吟は、従来どおり訓読で行っていた。しかし、中国伝来の歌曲の旋律に乗せて漢詩を唱う場合は、訓読すると原文の数倍の長さに伸びて「字余り」になってしまうため、当時の中国語の発音（近世唐音）で漢詩を唱った。具体的には、東臯心越禪師（1639-1695）に始まる琴学や、魏之琰（1617?-1689）が伝えた「魏氏明楽」、長崎来舶唐人が江戸中期に伝えた清楽などの中国伝来の楽曲の歌詞は、日本人も訓読ではなく唐音で直読で唱った。^[244]

近世日本における「唐音唱詩」の流行と、それにとまなう音楽文化の興隆は、東アジアの芸能の伝播を考察する上で注目すべき事例の一つである。

日本人の唐音唱詩の伝統は、東臯心越や魏之琰のころに始まり、約二百年続いた。明治二十七年（1894）、日清戦争が勃発し、中国語が「敵性語」に認定されると、唐音唱詩の伝統も終わりを告げた。ただし、唐音唱詩関連の文献資料は、今も豊富に残っている。

以下、唐音唱詩の一例として、李白の七言絶句「清平調三首」を取り上げ、日本人の中国芸能の受容の特徴について考察する。

江戸期における唐詩ブーム

よく知られているとおり、江戸時代の日本では、明の李攀龍（1514-1570）の編纂とされる『唐詩選』が人気となり、翻刻が重ねられた。それらの大半は、漢文訓読によるものであった。

李白の七言絶句「清平調三首」は有名な作品だが、行論の都合上、原文と、漢文訓読による読みかた（現代かなづかい。字音はカタカナ）の例を以下に示す。

雲想衣裳花想容。春風拂檻露華濃。若非群玉山頭見、会向瑤台下逢。

くもにはイショウをおもい、はなにはかたちをおもう。

シュンプウ、カンをはらってロカこまやかなり。

もしゲンギョクサントウにみるにあらずんば、

かならずヨウダイゲツカにむかってあわん。

一枝濃艶露凝香。雲雨巫山枉断腸。借問漢宮誰得似、可憐飛燕倚新粧。

イッシのノウエン、つゆ、かおりをこらす。

ウンウフザン、むなしくダンチョウ。

シャモンすカンキュウ、たれかになるをえたる、

カレンのヒエン、シンショウによる。

名花傾国両相歎。常得君王帶笑看。解釈春風無限恨、沈香亭北倚闌干。

メイカ、ケイコク、ふたつながらあいよろこぶ。

つねにクンノウのわらいをおびてみるをえたり。

シュンプウムゲンのうらみをカイシャクして、

チンコウテイホク、ランカンによる。

江戸時代の漢詩の本一例として、『唐詩選画本』^[註5]の「清平調」を示す(第三首の部分。右図)。

江戸時代の和本なので、現代の日本人が見慣れている明治以降の漢文訓読のスタイルとは、少し違うところがある。

このような漢文訓読と並行して、江戸時代中期からからは、唐音朗読や唐音唱詩のためのテキストも刊行されるようになった。

『魏氏楽譜』の清平調

江戸時代の初め、明国から日本に帰化した魏之琰(1617?-1689)が伝えた「魏氏明楽」は、当初はあまり広まらなかった。

魏之琰の曾孫である魏皓(? - 1774)は、自分の家に伝わる明楽を世に広めたいと考え、明和年間の前後に京都に居住し、百人以上の門弟を育てた。1768年には魏氏明楽の歌詞と楽譜の本である『魏氏楽譜』も刊行された。

明楽は、上方の公家や大名の支持を得て、一時はかなり流行したものの、魏皓の死後、急速に衰えた。明楽は、江戸時代の日本としては大編成の楽隊を必要としたこと、楽隊のレベルを維持するための費用も多額であったこと、明楽の楽曲は荘重で優雅な古典音楽であったが、それだけに庶民層の支持を得にくかったこと、など、さまざまな理由が重なった結果である。





明楽の「清平調」の楽譜の一部を示す。歌詞の右横に、カタカナで唐音の発音を書きこんである。

明楽の流行は短期間で終わり、魏皓の死後は衰えた。とはいえ、絶滅したわけではなかった。

姫路藩などでは、幕末まで藩の財政をあてて明楽の演奏を維持していた。また、明楽のメロディーは、本来の楽隊や合唱隊によるスタイルとはかけ離れてしまうものの、独奏や独唱で再現することも可能であった。

例えば、津島北溪『高岡詩話』（高岡市中央図書館）によれば、文政九年（1826）に、茶人として有名な八橋売茶（売茶翁）が高岡（現在の富山県高岡市）の広乾寺へ来寓し、明楽の歌曲「慶春楽」（おそらくは「慶春沢」の誤記）を演奏した。地元の住民で入門して明楽を学んだ者は、十数人に及んだ。この他、愛知県知立市の無量寿寺にも、八橋売茶ゆかりの明楽の楽器が残っている（以上は稲見恵七氏による調査による）^[註6]。

本来、オーケストラ編成で演奏されるべき明楽は、江戸後期には、サロン音楽的にスケールダウンして伝承されていた。

明治時代に入ると、明楽の楽曲の一部は「清楽」に吸収され、「明清楽」と総称されるようになった。一例として、明治10年（1877）刊の清楽譜『月琴楽譜』に収録されている「清平調」の楽譜を以下に掲げる^[註7]。

明治以降、さまざまな清楽本が刊行されたが、それらに収録されている明楽「清平調」の楽譜は、江戸時代の『魏氏楽譜』とくらべると、リズムがずれていたり、メロディーが崩れているところがある。

明治の清楽家は、いちいち江戸時代の明楽本を参照していたわけではなく、それぞれの流派に伝わった明楽の旋律や歌詞の発音を、楽譜本に記録していたのであろう。



中国演劇・音楽の域内・域外における発展・伝播に関する現地調査と文献研究(2)

テキスト・クリニックの立場からすれば墮落であるが、ローカリゼーションの視点から見れば、外来音楽の日本化のあらわれの一つであると見なすこともできる。

中国本土では、明の時代の音楽についての楽譜資料は、意外と少ない。日本に残る「魏氏明楽」は、中国本土の研究者にとっても、中国の古典音楽を研究する上で貴重な資料となっている。

『唐詩選唐音』の清平調

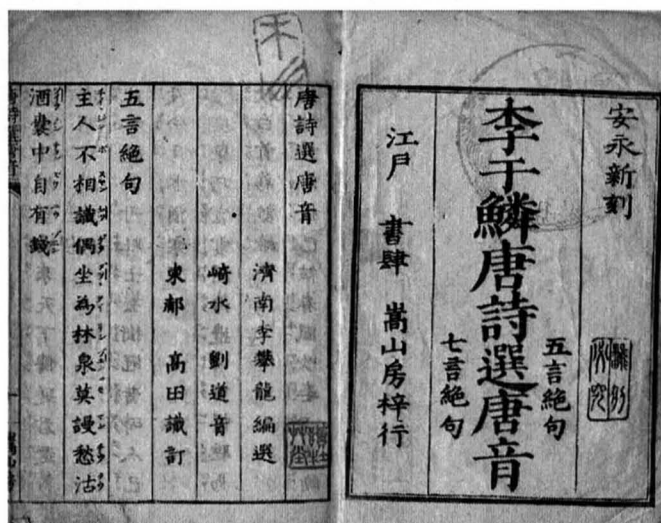
江戸中期の唐話学の興隆の波に乗り、漢詩を訓読するだけでなく、唐音で直読したいという読者も増えた。その需用に答えて民間の書肆から刊行されたのが、『唐詩選唐音』^[註8]である。以下に図版としてその一部を示す。

冒頭の、編選者や注音者、校訂者の名前を列記した部分は、象徴的である。それぞれの名前の前には地名が書いてある。済南は中国の地名。崎水は長崎、東都は江戸の漢文的雅称である。

現代人の感覚では、それぞれの地名の前に、中国・済南とか、日本・崎水のように、国名をつけるのが普通である。しかし、江戸時代の「四海斯文自一家」の感覚では、国名ぬきで地名からはじめるほうが自然であった。

さて、この本に収録する「清平調三首」の唐音のフリガナは、明清楽系の唐音とおおむね一致しつつも、細部では微妙に違うところがある。

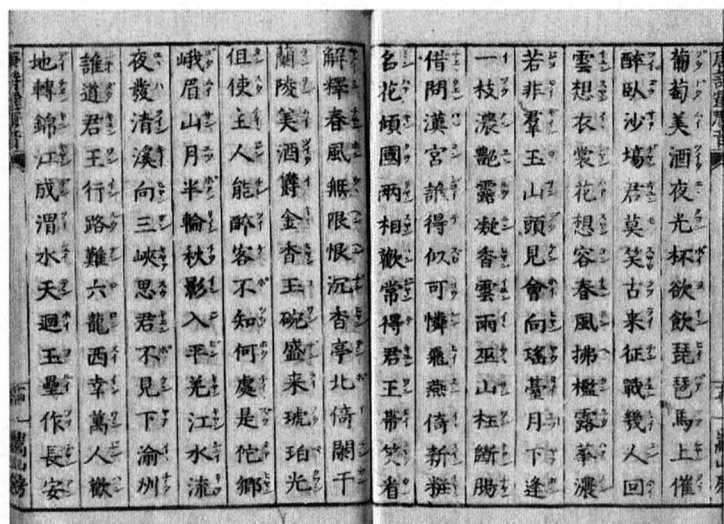
以下、清平調の部分を掲げるとともに、唐音のフリガナを転記しておく。



イユン スヤン イ、 シヤン ハア スヤン ヨン
 チユン ホン ヘ カン ルウ ハア ノン
 ジョ ヒイ ギイン ヨ サン デウ ケン
 ホイ ヒヤン ヤウ タイ エツ ヤア ホン

イ ツウ ノン エン ルウ ニン ヒヤン
 イユン イ、 ウ、 サン ワン トアン チヤン
 チエ ウエン ハン コン シユイ テ ズウ
 コウレン ヒイ エン イー スイン チヤン

ミン ハア キン クラ リヤン スヤン ハン
 ジヤン テ キユン ワン タイ スヤウ カン
 キアイ シ チユン ホン ウ、 ヘン ヘン
 ダン ヒヤン テン ポ イ ラン カン



『唐詩選唐音』清平調の部分

唐人の二つの意味

『唐詩選唐音』という書名は、暗示的である。

「唐詩」の唐は、唐王朝の時代を指す。しかし「唐音」は、唐の時代の発音、という意味ではない。長崎の「唐人」（海外に出た中国人）の発音、という意味である。

現代の日本人は、呉音は三国志の呉の時代の発音ではないこと、漢音は前漢や後漢の時代の発音ではないこと、唐音は唐の時代の発音ではないことを知っている（国語の知識の不足により誤解している日本人も多いが）。

近代以前の日本人の国語理解や漢字理解は、曖昧でおおらかであった。

同じ「唐人」でも、李白や杜甫は唐王朝の時代を生きた「唐人（とうひと）」だが、長崎に来舶する「唐人（とうじん）」は清国人である。両者の唐人が全く別であることは、江戸時代でも学識者にはわかっていた。

しかし、江戸時代の日本人の「唐人」は意味内容が曖昧模糊としていた。朝鮮通信使の一行も、一般の日本人は「唐人」と呼んだ。

傅士然が伝えたと言われるこの「清平調」のメロディーは、管見の及ぶ限りでは、後の歴代の清楽譜には受け継がれなかったようだ。

しかし、伝来当初はたしかに日本でも唱われていた。上掲の、波多野太郎氏蔵書に、当時の日本人によると思われる唐音と字割の書き込みがあることから、そう推定できる。

日本の清楽と台湾の詩吟

筆者は、傅士然の「清平調三首」のメロディーに近い楽曲が中国に残っていないかどうか、調査を行った。その結果、現状では一つだけ、やや近いものが見つかった。

台湾の伝統的な詩吟で、「天籟調」による「清平調」の吟詠のメロディーで、一部に似た旋律が残っていた。

以下、筆者が五線譜に直したものを並べ、比較してみよう。

清傅士然伝「唐詩五七絶譜」	台湾の詩吟（天籟調）の一例
	
名花傾国両相歎	名花 傾国 両相 歎
	
常得君王帶笑看	常得君王 帶笑 看
	
解釈春風無限恨	解釈春風 無限 恨
	
沈香亭北倚闌干	沈香 亭北 倚闌 干

上記のそれぞれの楽譜について説明する。

傅士然の「清平調」は、旧・波多野太郎蔵本では第三首の歌詞の左横に工尺譜が書き込んであるため、その部分を五線譜に直した。工尺譜の常として、細かいリズムや絶対音高については訳譜者の推定で補わねばならぬ部分もあるが、全体としてはおおむね上図のような旋律であったはずである。

台湾の詩吟（中国語では「吟詩」）での漢詩の唱いかたは、文人系、民謡系、劇音楽系、新作曲系など多種多様である。台湾の数多い詩吟の流派の中でも、文人的風格に富むとされる天籟調は、1920年に台北で成立した「天籟吟社」の創立者・林述三（1887-1957）が創始した詩吟のふしまわしである^[註11]。林述三は、台湾の詩吟のふしまわしをゼロから作曲したのではなく、既存の文人詩吟も参考にしたと思われるが、そのあたりの経緯は今後の調査研究の対象である。

上掲の五線譜は、筆者が、台湾の朱賜文氏による「清平調」の吟詠を耳で聞き、細かいこぶしを捨象し、ふしまわしの旋律を五線譜に直したものである。もとづいた動画はYouTubeで公開されている。下にその動画の画面ショットを掲げる。^[註12]



清平調-李白作(朱賜文吟唱)-(台湾語)

ユーザ一名: Tekyiau・5年前・再生回数 7,130回

清平調--作者: 李白。雲想衣裳花想容, 春風拂檻露華濃。若非群玉山頭見, 會向瑤臺月下逢。一枝秣豔露凝香, 雲雨巫山枉斷腸。

幕末の清楽と、台湾の詩吟の旋律を、比較してみよう。

第一句の「名花傾国両相飲」の旋律は、1860年の傅士然と、台湾の天籟調とは、よく似ている。「名」はラ（楽譜上ではC）、「花」はド（E b）と、両者とも同じ音高である。台湾・天籟調の清平調は、詩吟ゆえに細かい装飾音があるが、それらを捨象して「旋律線」の骨格の形を比べると、偶然の一致とは思えぬほど似ている。

第二句、第三句の旋律線は、あまり似ていない。

第四句の旋律線を比較すると、最後の「～倚闌干」の部分がやや似ている。特に、最後の「干」の字の音高は、両者とも「ド」（E b）である。

一般に、楽曲の流伝において、最初の歌い出しと、最後の歌い収めの部分は、聴衆の記憶に残りやすい部分である。天籟調と傅士然の両者の旋律線が、最初と最後の部分で相似性を示す。これが偶然の一致であるのか、それとも両者が同一の旋律から別れて別個に伝承した結果であるのか、現時点ではまだ断定できるほどの材料を入手できていない。

ここでは、江戸時代末期の日本で唱われていた傅士然の清平調と、現在の台湾の伝統的な詩吟（発音は台湾語による）の天籟調の清平調の旋律線が、似た部分をもつ、という事実のみを指摘するにとどめておく。

紙数の都合上、ここでは楽譜を掲げないが、中国各地に現存する詩吟や歌曲の「清平調」の旋律の中で、傅士然の清平調と少しでも似ているのは、台湾の天籟調「清平調」だけである。

傅士然の清平調と台湾の清平調の類似性を指摘するのは、おそらく拙論が最初である。大方の叱正を待つ。

おわりに

以上、日本における唐音唱詩の歴史の流れを見てきた。

最後に、中国芸能の域外への伝播、という視点で、その特徴をまとめなおしてみよう。

一般に、中国の地方劇は、「視覚的要素の普遍性」と「聴覚的要素の地方性」という性格をもつ。

例えば、京劇と昆劇は、衣装や化粧、俳優の演技の型など、視覚的要素は互いに非常によく似ている。日本の歌舞伎と能楽は、衣装も演技も違うため、それぞれ独特の舞台建築を必要とする。しかし中国の地方劇は、同一の舞台を使い回しすることができる。

一方、聴覚的要素については、中国演劇は劇種間の差異がはなはだしい。音楽のふしまわしも、セリフや歌の声の高さも、伴奏楽器の種類も、劇種によって全く違う。

舞台写真だけを見てそれがどの地方劇の舞台であるかをあてることは、中国人でも難しい。しかし、録音を聞けば、音声によって地方劇の種類を判断することができる。

従来、あまり指摘されなかったことだが、「漢詩の読まれかた」にも、視覚と聴覚での多様性のギャップが認められる。

漢詩の「書かれかた」という視覚的要素は、普遍的で「斯文」的である。漢字の書体は楷書・行書・草書さまざまだが、それらは東アジア圏共通のものである。実際、漢詩を白文で書いた書道作品を見て、筆勢だけからその書家の国籍を見分けることは難しい。また、日本独特の書体、例えば「勘亭流」で漢詩を書くことも、あまりない。

一方、漢詩の「朗唱のされかた」という音声的要素は、民族性・地方性に富み、「方言」的である。日本人は日本語の漢文訓読で漢詩を吟じる。台湾人は「国語」でなく台湾語で漢詩を吟じる。朗読は「標準語」でするにしても、詩語を吟味しつつ朗詠する場合は、やはり自分の属するエスニック・グループの「方言」で漢詩を吟詠したほうが、心の琴線に触れるからであろう。

近世日本における唐音唱詩の流行の背景には、漢詩の視覚面だけでなく、音声面でも中国本土と「斯文」的な一体感を得たいとする潜在的な願望があった。幕末の清博士然伝「唐詩五七絶譜」も、その一例であった。

しかし結局のところ、近世日本の唐音唱詩は、明治の末までに衰滅した。今日では漢詩の吟詠は訓読に一本化されている。

従来の研究では、その主因として、近代におけるナショナリズムの高揚があげられてきた。たしかに日清戦争の勃発後、民間で中国語や中国音楽を「敵性語」「敵性音楽」と見なす風潮が高まったことが、唐音唱詩衰亡に拍車をかけたことは、否定できない。

ただ筆者は、ナショナリズムの他にも、根源的な原因があったと考える。

もともと中国の文芸・芸能は、視覚面では「斯文」的な普遍性を要求するが、聴覚面では「方言」的な個性を許容する、という傾向があった。近世日本における唐音唱詩と訓読吟詩（詩吟）の歴史の変遷は、大局的に見れば、中国の芸能がもつそのような傾向に合致している。

現代の術語に「グローカル (glocal)」という言葉がある。グローバル (global) とローカル (local) を結びつけた造語で、「Think globally, act locally.」(世界規模で考え、地域に根ざして行う) という考え方を意味する。

中国の文芸・芸能の根本的な性格の一つは、この「グローカル」にある、と筆者は考える。儒教的世界観における「天下」「四海」と、今日の「グローバル」とは、意味内容は違うものの、人間世界における普遍的価値観を目指す方向性は同じである。

漢詩も、作詩などの think の面では「四海」の「斯文」というグローバル的要素を重んじる。しかし、吟詠などの act の面では、「方言」というローカル的な要素を大いに許容する。

日本における唐音唱詩の流行と衰退の歴史は、中国の文芸がもつそのような性質が、国外への伝播の際にも変わらずに保持されることを示している。

【注】

1. 『錦里文集』巻十二「対韓稿」（『詩集 日本漢詩』第十三巻、汲古書院、昭和六十三年十月）
2. 月刊『中央公論』2005年1月号、p.101
3. 九条兼実の日記『玉葉』文治二年（1186）六月二十五日の条
4. 明楽や清楽の近世に日本における流行については、拙論「中国伝来音楽と社会階層 ——清楽曲「九連環」を例にして」（東アジア地域間交流研究会 編『から船往来 ——日本を育てた ひと・ふね・まち・こころ』、中国書店、pp.219-242、2009年6月2日刊）を参照。
5. 『唐詩選画本』寛政二年（1790）正月出版、東都書林・崇山房、小林新兵衛板。筆者蔵。
6. 東京音楽大学附属民族音楽研究所主催 2013年度公開講座 No.4 「伊福部昭の残した楽器～明清楽器を聴く【其の参】」パンフレット3頁に載せる、稲見恵七氏の解説を参照。
7. 中井新六著『月琴楽譜』全四冊、大坂、明治10年（1877）刊
8. 『唐詩選唐音』安永六年（1777）刊。済南 李攀龍編選／崎水 劉道音／東都 高田識訂。奥付「安永六丁酉歲仲春／江戸 書林嵩山房 小林新兵衛梓行」。筆者蔵。
9. 「唐詩五七絶譜」（清傅士然伝）は、大島克著『観生居月琴譜』（萬延庚申＝1860年、伊勢の津刊。題簽「観生居月琴譜」、見返「月琴詞譜」）に収録されている。
10. 波多野太郎編『月琴音楽史略 暨家藏曲譜提要』（『横浜市立大学紀要』人文科学第7篇・中国文学第7号、昭和51年10月5日）より。
11. <http://tianlai.myweb.hinet.net/> 台北の「天籟吟社」のホームページに載せる歴史の説明より（2013年10月11日閲覧）
12. http://youtu.be/f3nRA2P_Mro「清平調—李白作（朱賜文吟唱）—（台湾語）」【公開日：2007/12/07】（2013-10-11閲覧）。

投稿者の Tekyiau 氏（氏は、この他にも台湾の詩吟の動画を多数公開中である）に問い合わせたところ、この動画の詩吟は台湾語の伝統的な「天籟調」であること、伝承の過程で元の形とは多少違うこと、などのご教示をいただいた。

詩吟の常として、細かい装飾音の部分については詠唱者の個人差が大きいが、ふしまわしの骨格にあたる旋律線は、おおむね変わらない。筆者は、天籟調による清平調の詩吟の動画を、朱賜文氏のものも含めて10本ほど比較検討したが、おおむね一致していた。その中でも朱氏の動画を選んだ理由は、投稿日が比較的古いこと、音程が聞き取りやすいこと（詩吟にも上手な人と下手な人がいる）などの理由による。

詩吟は、京劇の「散板」のリズムによる「唱」と同様、いわゆる「以字行腔」である。詠唱者は、詩語の一字一字の含蓄を玩味しながら、長さを自由に伸びちじみさせるため、本来は五線譜表記になじまない。五線譜の楽譜はいわば「楷書体」の漢字だが、実際の詩吟は「草書体」のように連綿とつながった緩急自在のリズムで吟じられる。上掲の天籟調の五線譜も、個々の音符の「高さ」は忠実に再現してあるが、「長さ」は楽譜作成パソコンソフトで楽譜化するために、便宜上「四分の三拍子」とした。実際の詩吟は、四分の三拍子ではない。ちなみに、明治時代に日本の詩吟を西洋式の楽譜に直したのも、便宜的に四分の三拍子で表記しているものがある。